

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/4/28	50137	デンカ生研株式会社	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	ウシ胎児血清	ウシ胎児の血清	製造中止	製造工程	無	無	無			
2005/4/28	50138	デンカ生研株式会社	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	ウシ血清	ウシの血液	製造中止	製造工程	無	無	無			
2005/4/28	50139	日本臓器製薬株式会社	抗ヒトTリンパ球ウサギ免疫グロブリン	培養ヒトリンパ芽球(JM細胞株)	ヒト(急性リンパ性白血病患者)末梢血	ドイツ	製造工程	無	無	無			
2005/4/28	50140	日本臓器製薬株式会社	抗ヒトTリンパ球ウサギ免疫グロブリン	ヒト胎盤ホモジネート	ヒト胎盤	ドイツ	製造工程	無	無	無			
2005/4/28	50141	日本臓器製薬株式会社	抗ヒトTリンパ球ウサギ免疫グロブリン	抗ヒトTリンパ球ウサギ免疫グロブリン	培養ヒトリンパ芽球免疫ウサギ血清	ドイツ、ハンガリー	有効成分	無	無	無			
2005/4/28	50142	日本臓器製薬株式会社	抗ヒトTリンパ球ウサギ免疫グロブリン	ウシ胎児血清	ウシ血液	米国	製造工程	無	無	無			
2005/4/28	50143	日本臓器製薬株式会社	抗ヒトTリンパ球ウサギ免疫グロブリン	ヒト赤血球	ヒト血液	ドイツ	製造工程	無	無	無			
2005/4/28	50144	日本臓器製薬株式会社	抗ヒトTリンパ球ウサギ免疫グロブリン	ウシ乳児血清	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
2005/4/28	50145	日本ビーシージー製造株式会社	乾燥BCGワクチン 乾燥BCG膀胱内用(日本株) イムノブラダー膀胱注用80mg	ウシの胆汁	ウシの胆	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE	J of General Virology 2004;85:3159-63	BSE感染ウシの脳を経口摂取したヒツジから子羊が母子感染する頻度は、臨床的にBSE感染したヒツジが母子感染する頻度より低い結果となることが示唆された。しかし母子感染を完全に否定はできない。
												J of Compalative Pathology 2004;132/1,59-69	実験的にBSE感染させたヒツジでは、症状発現前の段階で採取した扁桃腺生検サンプルにPrP ^{sc} が検出される可能性を示唆した。
												The Lancet 2005;365(9461):781-3	BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジネートの経口摂取により神経症状を発症したが、もう1頭は無症状であった。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/4/28	50146	小林化工株式会社	コンドロイチン硫酸ナトリウム・サリチル酸ナトリウム	コンドロイチン硫酸ナトリウム	ウシの軟骨	アメリカ	有効成分	無	無	無			
2005/4/28	50147	三共株式会社	トロンビン	トロンビン	牛の血漿及び肺	ニュージーランド	有効成分	有	無	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE Press Release 2005年2月2日	2005年1月28日、BSEに対するOIE委託研究所である英国の獣医学研究所を含むEUの専門研究所からのフランスのヤギにおけるBSE初症例について。
2005/5/6	50148	メルスモン製薬株式会社	胎盤絨毛分解物	胎盤絨毛系分解物	ヒト胎盤		有効成分	無	無	無			
2005/5/9	50149	東和薬品株式会社	ウリナスタチンの注射液	ウリナスタチン	ヒト尿抽出物	中国	有効成分	有	無	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Neuroscience 2004; 24(50):11280-90	ウシ海綿状脳症(BSE)の代用マーカーとして用いられているスクレイビー・プリオン(PrP ^{Sc})がin vitroにおいてフェリチンと結合し、これがヒト腸上皮細胞バリア突破機序に関連することを示した研究。
											鳥インフルエンザウイルス	Public Health Agency of Canada released 2005年1月14日	ベトナムにおけるトリインフルエンザ(H5N1)のアジア各国でのアウトブレイク発生に対する嚴重な注意喚起。
2005/5/9	50150	財団法人 化学及血清療法研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	アポセルロプラスミン	ヒト血液	日本	製造工程	有	無	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2004 ;364(9433):527-9	腹部大動脈瘤破裂により死亡した高齢者の剖検により、英国で輸血による感染の疑われる2例目のvCJD感染症が報告された。神経症状はなく、脳や脊髄、扁桃。筋肉等からはPrPresga検出されなかったが、脾臓に蓄積が認められた。また、プリオン蛋白遺伝子のコドン129番が、MV型へのヘテロ接合体であった。
											ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2004;53(36)842-4	2004年、米国における輸血に関連した西ナイルウイルス感染が1例報告された。
											鳥インフルエンザウイルス	WHO/CSR 2004年9月28日	ヒトからヒトへのトリインフルエンザ(H5N1)感染の可能性について。
											E型肝炎	Transfusion 2004;44(6):934-40	海外渡航歴が全くない67歳の日本人男性患者が、23名のドナーからの輸血を受け、その後原因不明の急性肝炎に罹患した。急性期の患者の血液サンプルの肝炎ウイルスマーカーを調べたところ、HEV抗体のIgMとIgGだけでなく、HEVのRNAも含んでいた。また、輸血したFFPユニットの1つからもHEV RNAを検出した。患者とドナーのPCR産物は、ORF1内の2つのHEVに特長的な領域が完全な同一性を示した。
											A型肝炎	Transfusion 2004;44(11):1555-61	供血後にA型肝炎を発症した供血者血液の輸血によりHAVが伝播した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											鳥インフルエンザウイルス	厚生労働省ホームページ H16年12月22日	国内(京都)で集団発生した高病原性鳥インフルエンザに関連して、防疫作業従事者等を対象に血清抗体価等の調査を行った結果、対照群と比較して抗体陽性率が高かった。このことから、長期にわたり組織的な感染防御なしに病鳥との接触や汚染環境との接触などが行われていたことから、個人防護具の着用なしに作業に従事していたことにより高率に感染が起こった可能性が示唆された。
											ロタウイルス陽性	第52回日本ウイルス学会 学術集会 (2004/11/21-23)	トリロタウイルスが人獣共通感染症の病原体である可能性が示された。
2005/5/11	50151	沢井製薬株式会社	ウリナスタチン	ウリナスタチン	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザウイルス	Proceedings of National Academy of Science 2004;101(5):1356-61	高病原性鳥インフルエンザA(H7N7)型ウイルスがヒト-ヒト感染した可能性を示唆する事例
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
2005/5/12	50152	大洋薬品工業株式会社	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタ	中国	有効成分	有	無	無	ブルセラ症	Veterinary Microbiology 2004;103:47-53	ナイジェリアの家畜におけるブルセラ感染の予備的観察の提示。
											大腸菌性胃腸炎	J of Food Protection 2004;67(10):2274-6	ブタが病原性大腸菌O157:H7の潜在的な保有者とされた調査結果。
2005/5/13	50153	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン (huGK-14細胞由来)	ウサギ抗ヒト血清アルブミン抗体	ウサギの血液	日本	製造工程	無	無	無			
2005/5/13	50154	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン (huGK-14細胞由来)	マウス抗HBsモノクローナル抗体	マウスの血液	日本	製造工程	無	無	無			
2005/5/13	50155	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン (huGK-14細胞由来)	DNase I	ウシの膵臓	アメリカ	製造工程	無	無	有			
2005/5/13	50156	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン (huGK-14細胞由来)	ウシ血清アルブミン	ウシの血液	カナダ	製造工程	無	無	有			
2005/5/13	50157	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン (huGK-14細胞由来)	ウシ胎児血清	ウシの血液	オーストラリア	製造工程	無	無	有			
2005/5/13	50158	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン (huGK-14細胞由来)	トリプシン	ブタの膵臓	アメリカ	製造工程	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/5/13	50159	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人活性化プロテインC	プロテインC	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2004 ;364(9433):527-9	腹部大動脈瘤破裂により死亡した高齢者の剖検により、英国で輸血による感染の疑われる2例目のvCJD感染症が報告された。神経症状はなく、脳や脊髄、扁桃。筋肉等からはPrPresga検出されなかったが、脾臓に蓄積が認められた。また、プリオン蛋白遺伝子のコドン129番が、MV型へのヘテロ接合体であった。
											ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2004;53 (36)842-4	2004年、米国における輸血に関連した西ナイルウイルス感染が1例報告された。
											鳥インフルエンザウイルス	WHO/CSR 2004年9月28日	ヒトからヒトへのトリインフルエンザ(H5N1)感染の可能性について。
											E型肝炎	Transfusion 2004;44(6):934-40	海外渡航歴が全くない67歳の日本人男性患者が、23名のドナーからの輸血を受け、その後原因不明の急性肝炎に罹患した。急性期の患者の血液サンプルの肝炎ウイルスマーカーを調べたところ、HEV抗体のIgMとIgGだけでなく、HEVのRNAも含んでいた。また、輸血したFFPユニットの1つからもHEV RNAを検出した。患者とドナーのPCR産物は、ORF1内の2つのHEVに特長的な領域が完全な同一性を示した。
											A型肝炎	Transfusion 2004;44(11):1555-61	供血後にA型肝炎を発症した供血者血液の輸血によりHAVが伝播した。
											鳥インフルエンザウイルス	厚生労働省ホームページ H16年12月22日	国内(京都)で集団発生した高病原性鳥インフルエンザに関連して、防疫作業従事者等を対象に血清抗体価等の調査を行った結果、対照群と比較して抗体陽性率が高かった。このことから、長期にわたり組織的な感染防御なしに病鳥との接触や汚染環境との接触などが行われていたことから、個人防護具の着用なしに作業に従事していたことにより高率に感染が起こった可能性が示唆された。
											ロタウイルス陽性	第52回日本ウイルス学会 学術集会 (2004/11/21-23)	トリロタウイルスが人獣共通感染症の病原体である可能性が示された。
2005/5/6	50160	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン	SPFニワトリ胚	SPF発育鶏卵	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(7):1321-4	発熱や下痢症状を示しているが、呼吸器症状を示していないトリインフルエンザ罹患者に関する情報

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											鳥インフルエンザウイルス	ProMed20041222-3372(厚生労働省ホームページ2004年12月23日)	2004年2月、ニワトリで発生した鳥インフルエンザ(H5N1)のヒトへの感染。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):686-91	呼吸器症状を示さず、脳炎と消化器症状を呈する高病原性トリインフルエンザA(H5N1型)の症例が報告された。
2005/5/6	50161	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	ニワトリ肉エキス	ニワトリの肉、骨	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(7):1321-4	発熱や下痢症状を示しているが、呼吸器症状を示していないトリインフルエンザ羅患者に関する情報
											鳥インフルエンザウイルス	ProMed20041222-3372(厚生労働省ホームページ2004年12月23日)	2004年2月、ニワトリで発生した鳥インフルエンザ(H5N1)のヒトへの感染。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):686-91	呼吸器症状を示さず、脳炎と消化器症状を呈する高病原性トリインフルエンザA(H5N1型)の症例が報告された。
2005/5/16	50162	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 水痘抗原	ウシ血清	ウシの血液	米国、ニュージーランド、オーストラリア(現在ウイルス培養工程で米国産原材料は使用していない。)	製造工程	有	無	無	ニパウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2082-7	バングラディッシュでのニパウイルス感染の調査結果。(ヒトが病気の牛に接触して感染した事例)

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/5/16	50163	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	牛肉消化液	ウシの筋肉	オーストラリア	製造工程	有	無	無	ニパウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2082-7	バングラディッシュでのニパウイルス感染の調査結果。(ヒトが病気の牛に接触して感染した事例)
2005/5/16	50164	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきワクチン	脱繊維牛血液	ウシの血液	米国(次回種菌培養よりニュージーランド産に変更予定である。)	製造工程	有	無	無	ニパウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2082-7	バングラディッシュでのニパウイルス感染の調査結果。(ヒトが病気の牛に接触して感染した事例)
2005/5/16	50165	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきワクチン	カザミノ酸	ウシの乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	ニパウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2082-7	バングラディッシュでのニパウイルス感染の調査結果。(ヒトが病気の牛に接触して感染した事例)
2005/5/16	50166	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたうかせ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたうかせワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン	乳糖	ウシの乳	オランダ、ドイツ、オーストラリア、ニュージーランド	添加物	有	無	無	ニパウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2082-7	バングラディッシュでのニパウイルス感染の調査結果。(ヒトが病気の牛に接触して感染した事例)

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/5/16	50167	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリアはしよふう混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	ペプトン	ウシの乳	ニュージーランド	製造工程	有	無	無	ニパウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2082-7	バングラディッシュでのニパウイルス感染の調査結果。(ヒトが病気の牛に接触して感染した事例)
2005/5/16	50168	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 水痘抗原	ラクトビオン酸エリスロマイシン	ウシの乳	オランダ、米国、カナダ、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	ニパウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2082-7	バングラディッシュでのニパウイルス感染の調査結果。(ヒトが病気の牛に接触して感染した事例)
2005/5/16	50169	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン	人血清アルブミン	ヒトの血液	該当なし(製造中止品目)	添加物	有	無	無	E型肝炎	Transfusion 2004;44(6):934-40	海外渡航歴が全くない67歳の日本人男性患者が、23名のドナーからの輸血を受け、その後原因不明の急性肝炎に罹患した。急性期の患者の血液サンプルの肝炎ウイルスマーカーを調べたところ、HEV抗体のIgMとIgGだけでなく、HEVのRNAも含んでいた。また、輸血したFFPユニットの1つからもHEV RNAを検出した。患者とドナーのPCR産物は、ORF1内の2つのHEVに特長的な領域が完全な同一性を示した。
											コロナウイルス感染	J of Infectious Diseases 2005;191(4):499-502	New Haven コロナウイルス(HCoV-NH)という新規のヒトコロナウイルスが典型的な川崎病の6ヶ月令の小児の呼吸器分泌液に存在していた。
											コロナウイルス感染	J of Infectious Diseases 2005; 191(4):492-8	NewHavenコロナウイルス(HCoV-NH)という新規のヒトコロナウイルスが遺伝子配列分析によってオランダで最近報告された新規HCoVと密接に関連していることが明らかになった。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
											HIV	MHRA/CRD Weekly 10, March 2005	職業的曝露後に医療従事者で発生した「実証された」および「可能性のある」HIVセロコンバージョン症例に関する報告。
2005/5/16	50170	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥痘そうワクチン 痘そうワクチン	ウシの皮膚	ウシの皮膚	該当なし (製造中止品目)	製造工程	有	無	無	ニパウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2082-7	バングラディッシュでのニパウイルス感染の調査結果。(ヒトが病気の牛に接触して感染した事例)
2005/5/17	50171	帝国臓器製薬株式会社	HMG注テゾー150	下垂体性性腺刺激ホルモン	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	ニパウイルス	バングラディッシュ国際下痢疾患研究センターHP (ICDDR, B)	ニパウイルスのヒト-ヒト感染伝播について。
											コロナウイルス感染	European Respiratory Journal 2005;25(1):12-14	SARS-CoVのRT-PCRの陽性反応がウイルス学的にSARSと確定された45名の患者について
2005/5/18	50172	アベンティスファーマ株式会社	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	赤血球ストローマ	ヒト血液	アメリカ	製造工程	有	無	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	British Medical Journal;329(251)	輸血によるvCJDに感染したと思われる2例目の症例
											クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2004 ;364(9433):527-9	腹部大動脈瘤破裂により死亡した高齢者の剖検により、英国で輸血による感染の疑われる2例目のvCJD感染症が報告された。神経症状はなく、脳や脊髄、扁桃。筋肉等からはPrPresga検出されなかったが、脾臓に蓄積が認められた。また、プリオン蛋白遺伝子のコドン129番が、MV型へのヘテロ接合体であった。
2005/5/19	50173	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン (huGK-14細胞由来)	HBs抗原たん白質 (huGK-14細胞由来)	ヒトの肝臓	日本	有効成分	有	無	有	鳥インフルエンザウイルス	厚生労働省ホームページ H16年12月18日	京都の鳥インフルエンザの抗体検査結果について
											ロタウイルス陽性	第52回日本ウイルス学会 学術集会(2004/11/21-23)	トリロタウイルスが人獣共通感染症の病原体である可能性を示した研究。
											コロナウイルス感染	J of Infectious Diseases 2005;191:492-8	NewHavenコロナウイルス(HCoV-NH)という新規のヒトコロナウイルスが遺伝子配列分析によってオランダで最近報告された新規HCoVと密接に関連していることが明らかになった。
											サルモネラ	感染症学雑誌 2004;78(11):989-90	日本においても多剤耐性Salmonella Newportが存在していることが確認された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance Weekly 2005:10(6)	2005年2月、日本で初の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病事例。現在のところ英国滞在中にvCJD感染物質に曝露した可能性が有力。
											レトロウイルス	ProMed20050227-0040(Reuter News 2005年2月25日)	これまで人間では感染が認められなかった新規2種のレトロウイルスがカメルーン日常的にサルを狩猟している人々から発見された。(HTLV-3,HTLV-4)
											大腸菌性胃腸炎	日本小児学会雑誌 2005; 109(1): 54-7	VT2産性の腸管出血性大腸菌O177:HNMIによる溶血性尿毒症症候群(HUS)の1例
											HIV	The Lancet 2005;365(9464):1031-38	2004年12月にヒト免疫不全ウイルス1型(HIV-1)感染と診断された男性の症状は20ヶ月以内(おそらくは4ヶ月以内にAIDSに進行した)。
2005/5/23	50174	株式会社ベネシス	乾燥人フィブリノゲン フィブリノゲン加第XIII因子	①凍結乾燥注射剤② その他外用	人血液	日本	有効成分	有	無	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	DNV Consulting, UK/February 2003	本文書は、英国海綿状脳症諮問委員会(SEAC)の勧告をもとにして英国保健省から委託を受けた英国のコンサルタント会社のDet Norske Veritas(DNV)が、vCJDの伝達性病原体から血液及び血液製剤のレシピエントを守るために、vCJD発症者からの血液及び血液製剤のレシピエントの特定とリスク評価を行い、さらにリスク削減を目的にした手段の有効性を考察したものであり、2003年2月に最終報告として発行(DNVのHPには2004年4月に公表)された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	BBC News 2004年11月10日	アイルランド共和国において、英国滞在歴のないvCJD患者が初めて確認された。この患者は輸血を受けたことはないし、供血したこともない。アイルランド共和国では以前にvCJDと診断された症例があるが、この患者はある時期英国に滞在していた。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Scienceexpress report 2004年11月11日	BSE由来プリオンでのヒトへの1次及び2次感染は、プリオンソース及びレシピエントの遺伝型の如何により、孤発性CJD様表現型もしくはvCJDに加えてさらに新規の表現型をもたらす可能性があり、また、ヒトプリオン病の患者全てをPrPScのタイプに分類したサーベランスを行なうことによって、BSE曝露パターンやvCJDプリオンの病原性ソースに関連した新規のPrPScタイプや特定のPrPScサブタイプの相対的頻度の変化を早期に発見できるであろうとする報告である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											サルパルボウイルス	J of Infectious Diseases 2004;190(11)1900-7	サルのパルボウイルス病が潜在的な人畜共通の伝染病と認識することに関する研究。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Neuroscience 2004; 24(50):11280-90	ウシ海綿状脳症(BSE)の代用マーカーとして用いられているスクレイビー・プリオン(PrP ^{Sc})がin vitroにおいてフェリチンと結合し、これがヒト腸上皮細胞バリア突破機序に関連することを示した研究。
											A型肝炎	AABB Weekly Report 2004;10(44) 3	米国血液銀行協会(AABB)は会員に対し、共通の感染源に由来するA型肝炎ウイルス(HAV)の流行に曝露された可能性のある供血者の取扱いについて、HAVに最後に曝露された可能性がある日から120日間供血停止することを勧告する。また、供血者がHAVに曝露されている可能性がある場合には当該製品の回収の勧告について審議する。
											鳥インフルエンザウイルス	RIVM rapport 630940003. Bilthoven: RIVM	2003年、オランダのH7N7鳥インフルエンザアウトブレイクコントロール期間内のリスクファクター、健康、福祉、ヘルスケアニーズと予防措置に関する調査結果。調査対象となった養鶏場従業員関係者の約千人が鳥インフルエンザに感染していた。調査結果の主な内容:①抗ウイルス薬のオセルタミビルは感染防御効果が見られたが、マスクやゴーグルでは見られなかった。②発症した453人の主要症状は結膜炎で、そのうち89人から鳥インフルエンザウイルスが検出され、そのうち3人は家禽との接触はなく、感染した人との接触のみであった。③感染した家禽業者と接触した家族の59%で抗体が検出された。④流行中感染した家禽と接触した500人のうち約50%に抗体が検出された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Scienceexpress report 2005;307:1107-10	腎臓、脾臓又肝臓に5つの炎症を有するマウスにプリオンを投与したところこれらの臓器にプリオンの集積が認められたが、リンフォトキシン- α 又はその受容体を欠いたマウスの炎症臓器にはプリオンは集積しなかった。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
											デング熱	Nephrology Dialysis Transplantation 2005; 20(2)447-8	デング熱の既往のあるドナーから、生体腎移植を受けたレシピエントが、腎移植後5日目に発熱を初発症状とする劇症のデング熱を発現したとの報告。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											HIV	The New York City Department of Health and Mental Hygiene Press Release 11 Feb 2005	抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行した症例が発見された。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(7):686-91	H5N1インフルエンザの臨床スペクトルに属する疾患について、これまで考えられていた範囲よりも、より広い範囲にわたるものであることが示唆された事例。
											ニパウイルス	Health and Science Bulletin,2(2),2004	2004年2月19日～4月16日にバングラデシュ Faridpur地区の住民36人がニパウイルスに感染し、27人が死亡した。患者23人の血清中にニパウイルスのIgM抗体が確認され、患者数名の喉拭き取りサンプルからニパウイルスRNAが検出された。濃厚接触のあったこれらの患者の家族間などに飛沫感染によると思われるヒトからヒトへのニパウイルス感染拡大が見られた。
											ハンタウイルス	Microbiology and Immunology 2004;48(11):843	2000年～2003年の日本各地におけるげっ歯類のハンタウイルス感染についての疫学調査結果。
											HTLV	The New York Times, February 26, 2005	アメリカの科学者は2005年2月25日、AIDSを起すウイルスと同じレトロウイルスに属する2つの新しいヒトのウイルスを発見したと述べた。これらウイルスは、サル及び他の霊長動物を狩猟するカメルーンの地方の人々に見出され、狩猟、食肉化、ペットとして飼ったときに咬まれたり引っ掻かれたりして、血液を介して伝播した可能性がある。第12回Annual Retrovirus Conferenceにおいて公表された。これらのレトロウイルスをHTLV-3及びHTLV-4と名づけたが、従来のHIVやHTLVと似ているのかまだ判っておらず、ヒトにどの程度伝播するのかカメルーンのヒト4000人について更に検査する計画である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											クロイツフェルト・ヤコブ病	PNAS,102(9),3501/2005	CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるために、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白質(rPrPsc)もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白質(sPrPsc)も両方の異常プリオン蛋白質(PrPsc)を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。大多数のイムノアッセイ法では、孤発性CJD(sCJD)患者の脳の灰白質及び白質の両方で全PrPscの90%あまりを占めるsPrPscが正常プリオン蛋白質(PrPc)を除去するためのプロテアーゼ処理中に消化されてしまうことにより、PrPsc量を過小評価することになることが明らかとなった。孤発性CJD患者8人から18の脳部位が組織学法、免疫組織化学法(IHC)、CDI法で検索したところ、それぞれ3部位(17%)、4部位(22%)、18部位(100%)が陽性であり、CDIはより高感度であるため、IHCが免疫診断技法の中でスタンダードとして使用されるべきでない。扁桃や虫垂がIHCによってのみ評価されているため、検出しそこなっている可能性がある。多数のプリオンサンプルをCDIで検査することによって、プリオン病の疫学が変わるかもしれない。
											マールブルグ病	WHO/CSR 2005年3月23日	アンゴラにおけるウイルス性出血性熱の流行の病原体は、マールブルグウイルスであることが確認された。3月21日に死亡した12症例のうち9例からこのウイルスが検出された。2004年10月以降現在まで102名が感染し、95名が死亡している。これまでにマールブルグウイルス感染症例は、1967年にウガンダから輸入した感染サルに接触したドイツ及びユーゴスラビアの検査技師31人(7人死亡)、1975年にジンバブエで3人(1人死亡)、1980年にケニアで2人(1人死亡)、1987年にケニアで1人(1人死亡)、1998年～2000年にコンゴで149人(123人死亡)が報告されている。このウイルス感染症の発生は大変まれでアフリカ大陸南部の国に限定されるように思われる。ヒト-ヒト感染が可能で、患者のケア中にしばしば起きる。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/5/23	50175	株式会社ベネシス	トロンビン フィブリノゲン加第X III因子	トロンビン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	DNV Consulting, UK/February 2003	本文書は、英国海綿状脳症諮問委員会(SEAC)の勧告をもとにして英国保健省から委託を受けた英国のコンサルタント会社のDet. Norske Veritas (DNV)が、vCJDの伝達性病原体から血液及び血液製剤のレシピエントを守るために、vCJD発症者からの血液及び血液製剤のレシピエントの特定とリスク評価を行い、さらにリスク削減を目的にした手段の有効性を考察したものであり、2003年2月に最終報告として発行(DNVのHPIには2004年4月に公表)された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	BBC News 2004年11月10日	アイルランド共和国において、英国滞在歴のないvCJD患者が初めて確認された。この患者は輸血を受けたことはないし、供血したこともない。アイルランド共和国では以前にvCJDと診断された症例があるが、この患者はある時期英国に滞在していた。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Scienceexpress report 2004年11月11日	BSE由来プリオンでのヒトへの1次及び2次感染は、プリオンソース及びレシピエントの遺伝型の如何により、孤発性CJD様表現型もしくはvCJDに加えてさらに新規の表現型をもたらす可能性があり、また、ヒトプリオン病の患者全てをPrPScのタイプに分類したサーベランスを行なうことによって、BSE曝露パターンやvCJDプリオンの病原性ソースに関連した新規のPrPScタイプや特定のPrPScサブタイプの相対的頻度の変化を早期に発見できるであろうとする報告である。
											サルパルポウイルス	J of Infectious Diseases 2004;190(11)1900-7	サルのパルポウイルス病が潜在的な人畜共通の伝染病と認識することに関する研究。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Neuroscience 2004; 24(50):11280-90	ウシ海綿状脳症(BSE)の代用マーカーとして用いられているスクレイピー・プリオン(PrPSc)がin vitroにおいてフェリチンと結合し、これがヒト腸上皮細胞バリア突破機序に関連することを示した研究。
											A型肝炎	AABB Weekly Report 2004;10(44) 3	米国血液銀行協会(AABB)は会員に対し、共通の感染源に由来するA型肝炎ウイルス(HAV)の流行に曝露された可能性のある供血者の取扱いについて、HAVに最後に曝露された可能性がある日から120日間供血停止することを勧告する。また、供血者がHAVに曝露されている可能性がある場合には当該製品の回収の勧告について審議する。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											鳥インフルエンザウイルス	RIVM rapport 630940003. Bilthoven: RIVM	2003年、オランダのH7N7鳥インフルエンザアウトブレイクコントロール期間内のリスクファクター、健康、福祉、ヘルスケアニーズと予防措置に関する調査結果。調査対象となった養鶏場従業員関係者の約千人が鳥インフルエンザに感染していた。調査結果の主な内容:①抗ウイルス薬のオセルタミビルは感染防御効果が見られたが、マスクやゴーグルでは見られなかった。②発症した453人の主要症状は結膜炎で、そのうち89人から鳥インフルエンザウイルスが検出され、そのうち3人は家禽との接触はなく、感染した人との接触のみであった。③感染した家禽業者と接触した家族の59%で抗体が検出された。④流行中感染した家禽と接触した500人のうち約50%に抗体が検出された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Sciencexpress report 2005;307:1107-10	腎臓、脾臓又肝臓に5つの炎症を有するマウスにプリオンを投与したところこれらの臓器にプリオンの集積が認められたが、リンフォトキシン- α 又はその受容体を欠いたマウスの炎症臓器にはプリオンは集積しなかった。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
											デング熱	Nephrology Dialysis Transplantation 2005; 20(2)447-8	デング熱の既往のあるドナーから、生体腎移植を受けたレシピエントが、腎移植後5日目に発熱を初発症状とする劇症のデング熱を発現したとの報告。
											HIV	The New York City Department of Health and Mental Hygiene Press Release 11 Feb 2005	抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行した症例が発見された。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(7):686-91	H5N1インフルエンザの臨床スペクトルに属する疾患について、これまで考えられていた範囲よりも、より広い範囲にわたるものであることが示唆された事例。
											ニパウイルス	Health and Science Bulletin,2(2),2004	2004年2月19日~4月16日にバングラデシュ Faridpur地区の住民36人がニパウイルスに感染し、27人が死亡した。患者23人の血清中にニパウイルスのIgM抗体が確認され、患者数名の喉拭き取りサンプルからニパウイルスRNAが検出された。濃厚接触のあったこれらの患者の家族間などに飛沫感染によると思われるヒトからヒトへのニパウイルス感染拡大が見られた。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											ハンタウイルス	Microbiology and Immunology 2004;48 (11):843	2000年～2003年の日本各地におけるげっ歯類のハンタウイルス感染についての疫学調査結果。
											HTLV	The New York Times, February 26, 2005	アメリカの科学者は2005年2月25日、AIDSを起すウイルスと同じレトロウイルスに属する2つの新しいヒトのウイルスを発見したと述べた。これらウイルスは、サル及び他の霊長動物を狩猟するカメルーンの地方の人々に見出され、狩猟、食肉化、ペットとして飼ったときに咬まれたり引っ掻かれたりして、血液を介して伝播した可能性がある。第12回Annual Retrovirus Conferenceにおいて公表された。これらのレトロウイルスをHTLV-3及びHTLV-4と名づけたが、従来のHIVやHTLVと似ているのかまだ判っておらず、ヒトにどの程度伝播するのかカメルーンのヒト4000人について更に検査する計画である。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	PNAS,102(9),3501/2005	CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるために、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白質(rPrP ^{sc})もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白質(sPrP ^{sc})も両方の異常プリオン蛋白質(PrP ^{sc})を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。大多数のイムノアッセイ法では、孤発性CJD(sCJD)患者の脳の灰白質及び白質の両方で全PrP ^{sc} の90%あまりを占めるsPrP ^{sc} が正常プリオン蛋白質(PrP ^c)を除去するためのプロテアーゼ処理中に消化されてしまうことにより、PrP ^{sc} 量を過小評価することになることが明らかとなった。孤発性CJD患者8人から18の脳部位が組織学法、免疫組織化学法(IHC)、CDI法で検索したところ、それぞれ3部位(17%)、4部位(22%)、18部位(100%)が陽性であり、CDIはより高感度であるため、IHCが免疫診断技法の中でスタンダードとして使用されるべきでない。扁桃や虫垂がIHCによってのみ評価されているため、検出しそこなっている可能性がある。多数のプリオンサンプルをCDIで検査することによって、プリオン病の疫学が変わるかもしれない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											マールブルグ病	WHO/CSR 2005年3月23日	アンゴラにおけるウイルス性出血性熱の流行の病原体は、マールブルグウイルスであることが確認された。3月21日に死亡した12症例のうち9例からこのウイルスが検出された。2004年10月以降現在まで102名が感染し、95名が死亡している。これまでにマールブルグウイルス感染症例は、1967年にウガンダから輸入した感染サルに接触したドイツ及びユーゴスラビアの検査技師31人(7人死亡)、1975年にジンバブエで3人(1人死亡)、1980年にケニアで2人(1人死亡)、1987年にケニアで1人(1人死亡)、1998年～2000年にコンゴで149人(123人死亡)が報告されている。このウイルス感染症の発生は大変まれでアフリカ大陸南部の国に限定されるように思われる。ヒト-ヒト感染が可能で、患者のケア中にしばしば起きる。
2005/5/23	50176	株式会社ベネシス	乾燥濃縮人アンチロニンビンIII	人アンチロニンビンIII	人血液	非献血：米国、献血：日本	有効成分	有	無	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	DNV Consulting, UK/February 2003	本文書は、英国海綿状脳症諮問委員会(SEAC)の勧告をもとにして英国保健省から委託を受けた英国のコンサルタント会社のDet Norske Veritas(DNV)が、vCJDの伝達性病原体から血液及び血液製剤のレシピエントを守るために、vCJD発症者からの血液及び血液製剤のレシピエントの特定とリスク評価を行い、さらにリスク削減を目的にした手段の有効性を考察したものであり、2003年2月に最終報告として発行(DNVのHPには2004年4月に公表)された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	BBC News 2004年11月10日	2004 アイルランド共和国において、英国滞在歴のないvCJD患者が初めて確認された。この患者は輸血を受けたことはないし、供血したこともない。アイルランド共和国では以前にvCJDと診断された症例があるが、この患者はある時期英国に滞在していた。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Sciencexpress report 2004年11月11日	BSE由来プリオンでのヒトへの1次及び2次感染は、プリオンソース及びレシピエントの遺伝型の如何により、孤発性CJD様表現型もしくはvCJDに加えてさらに新規の表現型をもたらす可能性があり、また、ヒトプリオン病の患者全てをPrPScのタイプに分類したサーベランスを行なうことによって、BSE曝露パターンやvCJDプリオンの病原性ソースに関連した新規のPrPScタイプや特定のPrPScサブタイプの相対的頻度の変化を早期に発見できるであろうとする報告である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											サルパルボウイルス	J of Infectious Diseases 2004;190(11)1900-7	サルのパルボウイルス病が潜在的な人畜共通の伝染病と認識することに関する研究。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Neuroscience 2004; 24(50):11280-90	ウシ海綿状脳症(BSE)の代用マーカーとして用いられているスクレイビー・プリオン(PrP ^{Sc})がin vitroにおいてフェリチンと結合し、これがヒト腸上皮細胞バリア突破機序に関連することを示した研究。
											A型肝炎	AABB Weekly Report 2004;10(44) 3	米国血液銀行協会(AABB)は会員に対し、共通の感染源に由来するA型肝炎ウイルス(HAV)の流行に曝露された可能性のある供血者の取扱いについて、HAVに最後に曝露された可能性がある日から120日間供血停止することを勧告する。また、供血者がHAVに曝露されている可能性がある場合には当該製品の回収の勧告について審議する。
											鳥インフルエンザウイルス	RIVM rapport 630940003. Bilthoven: RIVM	2003年、オランダのH7N7鳥インフルエンザアウトブレイクコントロール期間内のリスクファクター、健康、福祉、ヘルスケアニーズと予防措置に関する調査結果。調査対象となった養鶏場従業員関係者の約千人が鳥インフルエンザに感染していた。調査結果の主な内容:①抗ウイルス薬のオセルタミビルは感染防御効果が見られたが、マスクやゴーグルでは見られなかった。②発症した453人の主要症状は結膜炎で、そのうち89人から鳥インフルエンザウイルスが検出され、そのうち3人は家禽との接触はなく、感染した人との接触のみであった。③感染した家禽業者と接触した家族の59%で抗体が検出された。④流行中感染した家禽と接触した500人のうち約50%に抗体が検出された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Scienceexpress report 2005;307:1107-10	腎臓、脾臓又肝臓に5つの炎症を有するマウスにプリオンを投与したところこれらの臓器にプリオンの集積が認められたが、リンフォトキシン- α 又はその受容体を欠いたマウスの炎症臓器にはプリオンは集積しなかった。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
											デング熱	Nephrology Dialysis Transplantation 2005; 20(2)447-8	デング熱の既往のあるドナーから、生体腎移植を受けたレシピエントが、腎移植後5日目に発熱を初発症状とする劇症のデング熱を発現したとの報告。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											HIV	The New York City Department of Health and Mental Hygiene Press Release 11 Feb 2005	抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行した症例が発見された。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(7):686-91	H5N1インフルエンザの臨床スペクトルに属する疾患について、これまで考えられていた範囲よりも、より広い範囲にわたるものであることが示唆された事例。
											ニパウイルス	Health and Science Bulletin,2(2),2004	2004年2月19日～4月16日にバングラデシュ Faridpur地区の住民36人がニパウイルスに感染し、27人が死亡した。患者23人の血清中にニパウイルスのIgM抗体が確認され、患者数名の喉拭き取りサンプルからニパウイルスRNAが検出された。濃厚接触のあったこれらの患者の家族間などに飛沫感染によると思われるヒトからヒトへのニパウイルス感染拡大が見られた。
											ハンタウイルス	Microbiology and Immunology 2004;48(11):843	2000年～2003年の日本各地におけるげっ歯類のハンタウイルス感染についての疫学調査結果。
											HTLV	The New York Times, February 26, 2005	アメリカの科学者は2005年2月25日、AIDSを起すウイルスと同じレトロウイルスに属する2つの新しいヒトのウイルスを発見したと述べた。これらウイルスは、サル及び他の霊長動物を狩猟するカメルーンの地方の人々に見出され、狩猟、食肉化、ペットとして飼ったときに咬まれたり引っ掻かれたりして、血液を介して伝播した可能性がある。第12回Annual Retrovirus Conferenceにおいて公表された。これらのレトロウイルスをHTLV-3及びHTLV-4と名づけたが、従来のHIVやHTLVと似ているのかまだ判っておらず、ヒトにどの程度伝播するのかカメルーンのヒト4000人について更に検査する計画である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											クロイツフェルト・ヤコブ病	PNAS,102(9),3501/2005	CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるために、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白質(rPrPsc)もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白質(sPrPsc)も両方の異常プリオン蛋白質(PrPsc)を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。大多数のイムノアッセイ法では、孤発性CJD(sCJD)患者の脳の灰白質及び白質の両方で全PrPscの90%あまりを占めるsPrPscが正常プリオン蛋白質(PrPc)を除去するためのプロテアーゼ処理中に消化されてしまうことにより、PrPsc量を過小評価することになることが明らかとなった。孤発性CJD患者8人から18の脳部位が組織学法、免疫組織化学法(IHC)、CDI法で検索したところ、それぞれ3部位(17%)、4部位(22%)、18部位(100%)が陽性であり、CDIはより高感度であるため、IHCが免疫診断技法の中でスタンダードとして使用されるべきでない。扁桃や虫垂がIHCによってのみ評価されているため、検出しそこなっている可能性がある。多数のプリオンサンプルをCDIで検査することによって、プリオン病の疫学が変わるかもしれない。
											マールブルグ病	WHO/CSR 2005年3月23日	アンゴラにおけるウイルス性出血性熱の流行の病原体は、マールブルグウイルスであることが確認された。3月21日に死亡した12症例のうち9例からこのウイルスが検出された。2004年10月以降現在まで102名が感染し、95名が死亡している。これまでにマールブルグウイルス感染症例は、1967年にウガンダから輸入した感染サルに接触したドイツ及びユーゴスラビアの検査技師31人(7人死亡)、1975年にジンバブエで3人(1人死亡)、1980年にケニアで2人(1人死亡)、1987年にケニアで1人(1人死亡)、1998年~2000年にコンゴで149人(123人死亡)が報告されている。このウイルス感染症の発生は大変まれでアフリカ大陸南部の国に限定されるように思われる。ヒト-ヒト感染が可能で、患者のケア中にしばしば起きる。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/5/23	50177	株式会社ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子	血液凝固第Ⅸ因子	人血液	日本	有効成分	有	無	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	DNV Consulting, UK/February 2003	本文書は、英国海綿状脳症諮問委員会(SEAC)の勧告をもとにして英国保健省から委託を受けた英国のコンサルタント会社のDet. Norske Veritas (DNV)が、vCJDの伝達性病原体から血液及び血液製剤のレシピエントを守るために、vCJD発症者からの血液及び血液製剤のレシピエントの特定とリスク評価を行い、さらにリスク削減を目的にした手段の有効性を考察したものであり、2003年2月に最終報告として発行(DNVのHPIには2004年4月に公表)された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	BBC News 2004年11月10日	アイルランド共和国において、英国滞在歴のないvCJD患者が初めて確認された。この患者は輸血を受けたことはないし、供血したこともない。アイルランド共和国では以前にvCJDと診断された症例があるが、この患者はある時期英国に滞在していた。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Scienceexpress report 2004年11月11日	BSE由来プリオンでのヒトへの1次及び2次感染は、プリオンソース及びレシピエントの遺伝型の如何により、孤発性CJD様表現型もしくはvCJDに加えてさらに新規の表現型をもたらす可能性があり、また、ヒトプリオン病の患者全てをPrPScのタイプに分類したサーベランスを行なうことによって、BSE曝露パターンやvCJDプリオンの病原性ソースに関連した新規のPrPScタイプや特定のPrPScサブタイプの相対的頻度の変化を早期に発見できるであろうとする報告である。
											サルパルポウイルス	J of Infectious Diseases 2004;190(11)1900-7	サルのパルポウイルス病が潜在的な人畜共通の伝染病と認識することに関する研究。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Neuroscience 2004; 24(50):11280-90	ウシ海綿状脳症(BSE)の代用マーカーとして用いられているスクレイパー・プリオン(PrPSc)がin vitroにおいてフェリチンと結合し、これがヒト腸上皮細胞バリア突破機序に関連することを示した研究。
											A型肝炎	AABB Weekly Report 2004;10(44) 3	米国血液銀行協会(AABB)は会員に対し、共通の感染源に由来するA型肝炎ウイルス(HAV)の流行に曝露された可能性のある供血者の取扱いについて、HAVに最後に曝露された可能性がある日から120日間供血停止することを勧告する。また、供血者がHAVに曝露されている可能性がある場合には当該製品の回収の勧告について審議する。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											鳥インフルエンザウイルス	RIVM rapport 630940003. Bilthoven: RIVM	2003年、オランダのH7N7鳥インフルエンザアウトブレイクコントロール期間内のリスクファクター、健康、福祉、ヘルスケアニーズと予防措置に関する調査結果。調査対象となった養鶏場従業員関係者の約千人が鳥インフルエンザに感染していた。調査結果の主な内容:①抗ウイルス薬のオセルタミビルは感染防御効果が見られたが、マスクやゴーグルでは見られなかった。②発症した453人の主要症状は結膜炎で、そのうち89人から鳥インフルエンザウイルスが検出され、そのうち3人は家禽との接触はなく、感染した人との接触のみであった。③感染した家禽業者と接触した家族の59%で抗体が検出された。④流行中感染した家禽と接触した500人のうち約50%に抗体が検出された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Sciencexpress report 2005;307:1107-10	腎臓、脾臓又肝臓に5つの炎症を有するマウスにプリオンを投与したところこれらの臓器にプリオンの集積が認められたが、リンフォトキシン- α 又はその受容体を欠いたマウスの炎症臓器にはプリオンは集積しなかった。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
											デング熱	Nephrology Dialysis Transplantation 2005; 20(2)447-8	デング熱の既往のあるドナーから、生体腎移植を受けたレシピエントが、腎移植後5日目に発熱を初発症状とする劇症のデング熱を発現したとの報告。
											HIV	The New York City Department of Health and Mental Hygiene Press Release 11 Feb 2005	抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行した症例が発見された。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(7):686-91	H5N1インフルエンザの臨床スペクトルに属する疾患について、これまで考えられていた範囲よりも、より広い範囲にわたるものであることが示唆された事例。
											ニパウイルス	Health and Science Bulletin,2(2),2004	2004年2月19日~4月16日にバングラデシュ Faridpur地区の住民36人がニパウイルスに感染し、27人が死亡した。患者23人の血清中にニパウイルスのIgM抗体が確認され、患者数名の喉拭き取りサンプルからニパウイルスRNAが検出された。濃厚接触のあったこれらの患者の家族間などに飛沫感染によると思われるヒトからヒトへのニパウイルス感染拡大が見られた。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											ハンタウイルス	Microbiology and Immunology 2004;48 (11):843	2000年～2003年の日本各地におけるげっ歯類のハンタウイルス感染についての疫学調査結果。
											HTLV	The New York Times, February 26, 2005	アメリカの科学者は2005年2月25日、AIDSを起すウイルスと同じレトロウイルスに属する2つの新しいヒトのウイルスを発見したと述べた。これらウイルスは、サル及び他の霊長動物を狩猟するカメルーンの地方の人々に見出され、狩猟、食肉化、ペットとして飼ったときに咬まれたり引っ掻かれたりして、血液を介して伝播した可能性がある。第12回Annual Retrovirus Conferenceにおいて公表された。これらのレトロウイルスをHTLV-3及びHTLV-4と名づけたが、従来のHIVやHTLVと似ているのかまだ判っておらず、ヒトにどの程度伝播するのかカメルーンのヒト4000人について更に検査する計画である。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	PNAS,102(9),3501/2005	CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるために、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白質(rPrPsc)もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白質(sPrPsc)も両方の異常プリオン蛋白質(PrPsc)を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。大多数のイムノアッセイ法では、孤発性CJD(sCJD)患者の脳の灰白質及び白質の両方で全PrPscの90%あまりを占めるsPrPscが正常プリオン蛋白質(PrPc)を除去するためのプロテアーゼ処理中に消化されてしまうことにより、PrPsc量を過小評価することになることが明らかとなった。孤発性CJD患者8人から18の脳部位が組織学法、免疫組織化学法(IHC)、CDI法で検索したところ、それぞれ3部位(17%)、4部位(22%)、18部位(100%)が陽性であり、CDIはより高感度であるため、IHCが免疫診断技法の中でスタンダードとして使用されるべきでない。扁桃や虫垂がIHCによってのみ評価されているため、検出しそこなっている可能性がある。多数のプリオンサンプルをCDIで検査することによって、プリオン病の疫学が変わるかもしれない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											マールブルグ病	WHO/CSR 2005年3月23日	アンゴラにおけるウイルス性出血性熱の流行の病原体は、マールブルグウイルスであることが確認された。3月21日に死亡した12症例のうち9例からこのウイルスが検出された。2004年10月以降現在まで102名が感染し、95名が死亡している。これまでにマールブルグウイルス感染症例は、1967年にウガンダから輸入した感染サルに接触したドイツ及びユーゴスラビアの検査技師31人(7人死亡)、1975年にジンバブエで3人(1人死亡)、1980年にケニアで2人(1人死亡)、1987年にケニアで1人(1人死亡)、1998年～2000年にコンゴで149人(123人死亡)が報告されている。このウイルス感染症の発生は大変まれでアフリカ大陸南部の国に限定されるように思われる。ヒト-ヒト感染が可能で、患者のケア中にしばしば起きる。
2005/5/23	50178	株式会社ベネシス	乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	抗D(Rho)抗体含有人免疫グロブリンG	人血液	米国	有効成分	有	無	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	DNV Consulting, UK/February 2003	本文書は、英国海綿状脳症諮問委員会(SEAC)の勧告をもとにして英国保健省から委託を受けた英国のコンサルタント会社のDet Norske Veritas(DNV)が、vCJDの伝達性病原体から血液及び血液製剤のレシピエントを守るために、vCJD発症者からの血液及び血液製剤のレシピエントの特定とリスク評価を行い、さらにリスク削減を目的とした手段の有効性を考察したものであり、2003年2月に最終報告として発行(DNVのHPには2004年4月に公表)された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	BBC News 2004年11月10日	2004 アイルランド共和国において、英国滞在歴のないvCJD患者が初めて確認された。この患者は輸血を受けたことはないし、供血したこともない。アイルランド共和国では以前にvCJDと診断された症例があるが、この患者はある時期英国に滞在していた。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Sciencexpress report 2004年11月11日	BSE由来プリオンでのヒトへの1次及び2次感染は、プリオンソース及びレシピエントの遺伝型の如何により、孤発性CJD様表現型もしくはvCJDに加えてさらに新規の表現型をもたらす可能性があり、また、ヒトプリオン病の患者全てをPrPScのタイプに分類したサーベランスを行なうことによって、BSE曝露パターンやvCJDプリオンの病原性ソースに関連した新規のPrPScタイプや特定のPrPScサブタイプの相対的頻度の変化を早期に発見できるであろうとする報告である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											サルパルボウイルス	J of Infectious Diseases 2004;190(11)1900-7	サルのパルボウイルス病が潜在的な人畜共通の伝染病と認識することに関する研究。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Neuroscience 2004; 24(50):11280-90	ウシ海綿状脳症(BSE)の代用マーカーとして用いられているスクレイビー・プリオン(PrP ^{Sc})がin vitroにおいてフェリチンと結合し、これがヒト腸上皮細胞バリア突破機序に関連することを示した研究。
											A型肝炎	AABB Weekly Report 2004;10(44) 3	米国血液銀行協会(AABB)は会員に対し、共通の感染源に由来するA型肝炎ウイルス(HAV)の流行に曝露された可能性のある供血者の取扱いについて、HAVに最後に曝露された可能性がある日から120日間供血停止することを勧告する。また、供血者がHAVに曝露されている可能性がある場合には当該製品の回収の勧告について審議する。
											鳥インフルエンザウイルス	RIVM rapport 630940003. Bilthoven: RIVM	2003年、オランダのH7N7鳥インフルエンザアウトブレイクコントロール期間内のリスクファクター、健康、福祉、ヘルスケアニーズと予防措置に関する調査結果。調査対象となった養鶏場従業員関係者の約千人が鳥インフルエンザに感染していた。調査結果の主な内容:①抗ウイルス薬のオセルタミビルは感染防御効果が見られたが、マスクやゴーグルでは見られなかった。②発症した453人の主要症状は結膜炎で、そのうち89人から鳥インフルエンザウイルスが検出され、そのうち3人は家禽との接触はなく、感染した人との接触のみであった。③感染した家禽業者と接触した家族の59%で抗体が検出された。④流行中感染した家禽と接触した500人のうち約50%に抗体が検出された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Scienceexpress report 2005;307:1107-10	腎臓、脾臓又肝臓に5つの炎症を有するマウスにプリオンを投与したところこれらの臓器にプリオンの集積が認められたが、リンフォトキシン- α 又はその受容体を欠いたマウスの炎症臓器にはプリオンは集積しなかった。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
											デング熱	Nephrology Dialysis Transplantation 2005; 20(2)447-8	デング熱の既往のあるドナーから、生体腎移植を受けたレシピエントが、腎移植後5日目に発熱を初発症状とする劇症のデング熱を発現したとの報告。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											HIV	The New York City Department of Health and Mental Hygiene Press Release 11 Feb 2005	抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行した症例が発見された。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(7):686-91	H5N1インフルエンザの臨床スペクトルに属する疾患について、これまで考えられていた範囲よりも、より広い範囲にわたるものであることが示唆された事例。
											ニパウイルス	Health and Science Bulletin,2(2),2004	2004年2月19日～4月16日にバングラデシュ Faridpur地区の住民36人がニパウイルスに感染し、27人が死亡した。患者23人の血清中にニパウイルスのIgM抗体が確認され、患者数名の喉拭き取りサンプルからニパウイルスRNAが検出された。濃厚接触のあったこれらの患者の家族間などに飛沫感染によると思われるヒトからヒトへのニパウイルス感染拡大が見られた。
											ハンタウイルス	Microbiology and Immunology 2004;48(11):843	2000年～2003年の日本各地におけるげっ歯類のハンタウイルス感染についての疫学調査結果。
											HTLV	The New York Times, February 26, 2005	アメリカの科学者は2005年2月25日、AIDSを起すウイルスと同じレトロウイルスに属する2つの新しいヒトのウイルスを発見したと述べた。これらウイルスは、サル及び他の霊長動物を狩猟するカメルーンの地方の人々に見出され、狩猟、食肉化、ペットとして飼ったときに咬まれたり引っ掻かれたりして、血液を介して伝播した可能性がある。第12回Annual Retrovirus Conferenceにおいて公表された。これらのレトロウイルスをHTLV-3及びHTLV-4と名づけたが、従来のHIVやHTLVと似ているのかまだ判っておらず、ヒトにどの程度伝播するのかカメルーンのヒト4000人について更に検査する計画である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											クロイツフェルト・ヤコブ病	PNAS,102(9),3501/2005	CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるために、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白質(rPrPsc)もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白質(sPrPsc)も両方の異常プリオン蛋白質(PrPsc)を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。大多数のイムノアッセイ法では、孤発性CJD(sCJD)患者の脳の灰白質及び白質の両方で全PrPscの90%あまりを占めるsPrPscが正常プリオン蛋白質(PrPc)を除去するためのプロテアーゼ処理中に消化されてしまうことにより、PrPsc量を過小評価することになることが明らかとなった。孤発性CJD患者8人から18の脳部位が組織学法、免疫組織化学法(IHC)、CDI法で検索したところ、それぞれ3部位(17%)、4部位(22%)、18部位(100%)が陽性であり、CDIはより高感度であるため、IHCが免疫診断技法の中でスタンダードとして使用されるべきでない。扁桃や虫垂がIHCによってのみ評価されているため、検出しそこなっている可能性がある。多数のプリオンサンプルをCDIで検査することによって、プリオン病の疫学が変わるかもしれない。
											マールブルグ病	WHO/CSR 2005年3月23日	アンゴラにおけるウイルス性出血性熱の流行の病原体は、マールブルグウイルスであることが確認された。3月21日に死亡した12症例のうち9例からこのウイルスが検出された。2004年10月以降現在まで102名が感染し、95名が死亡している。これまでにマールブルグウイルス感染症例は、1967年にウガンダから輸入した感染サルに接触したドイツ及びユーゴスラビアの検査技師31人(7人死亡)、1975年にジンバブエで3人(1人死亡)、1980年にケニアで2人(1人死亡)、1987年にケニアで1人(1人死亡)、1998年~2000年にコンゴで149人(123人死亡)が報告されている。このウイルス感染症の発生は大変まれでアフリカ大陸南部の国に限定されるように思われる。ヒト-ヒト感染が可能で、患者のケア中にしばしば起きる。
2005/5/23	50179	株式会社ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子	ヤギIgG	ヤギ血液	米国(※H17.3.18付で原産国のオーストラリアへの変更承認を取得済みである)	製造工程	有	無	無	BSE	AFSSA/2004年10月28日	EUのサーベイランス調査プログラムで特定された伝達性亜急性性海綿状脳症(TSE)例の株の仏国内タイピングネットワークによって、2002年にと畜されたヤギにおいて、調査の現段階でウシ海綿状脳症(BSE)株と同一ような特徴を有する感染性病原体が、存在することが指摘された。この疑いのある株をマウスに接種して分析をするために2年間を要した。今後3か月以内に新たに得られる成績を待って、この疑いを確認又は否定することができるものと思われる。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											BSE	European Commission Press Release 2005年1月28日	2002年にフランスで屠殺されたヤギのBSE疑い事例は、ヨーロッパの科学者会議において本日、BSEと確定された。ECはこれが孤発例であるものかどうかを決定するために検査を行うように提案した。自然界のヤギにおいて最初に見つかったBSEであるが、EUではこのような事態から消費者を保護するための措置を数年間にわたり適用している。ヤギのTSE感染レベルは極端に低く、消費者へのリスクはほとんどない。ECはフランス当局が英国のCRLに対して予備検査結果を提出するように要請していた。
2005/5/23	50180	株式会社ベネシス	ナサルブラーゼ(細胞培養)	ウシ胎児血清	ウシ血液	米国	製造工程	無	無	無			
2005/5/23	50181	株式会社ベネシス	ナサルブラーゼ(細胞培養)	ウサギIgG	ウサギ血液	日本	製造工程	無	有	有			
2005/4/23	50182	株式会社ベネシス	ナサルブラーゼ(細胞培養)	ウマIgG	ウマ血液	日本	製造工程	無	無	無			
2005/5/23	50183	株式会社第一ラジオアイソトープ研究所	テクネチウム人血清アルブミン	テクネチウム人血清アルブミン	ヒト血液	米国	有効成分	有	無	無	髄膜炎感染	WHO /CSR 2005年1月11日	フィリピン保健省が、髄膜炎菌様疾患による患者33名の内、19名が死亡した(致死率58%)
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
											デング熱	Nephrology Dialysis Transplantation 2005;20(2):447-8	デング熱の既往のあるドナーから、生体腎移植を受けたレシピエントが、腎移植後5日目に発熱を初発症状とする劇症のデング熱を発現したとの報告。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):686-91	呼吸器症状を示さず、脳炎と消化器症状を呈する高病原性トリインフルエンザA(H5N1型)の症例が報告された。
											HTLV	Reuters News 2005年2月26日	今までヒトでは感染が確認されていなかった2種類のTリンパ球向性ウイルス(HTLV-3, HTLV-4)が初めて人から分離された。
											マールブルグ病	WHO /CSR 2005年3月31日-4月22日	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。
2005/5/24	50184	三菱ウェルファーマ株式会社	肺サーファクタント製剤	サーファクタント	ウシ肺	ニュージーランド、オーストラリア	有効成分	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/5/24	50185	塩野義製薬株式会社	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロンガンマ-1a(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	ヒト血液	アメリカ	添加物	有	無	無	ウマ脳炎	The Boston channel com 17 Sep 2004	アメリカにおいて蚊を媒介とする東部ウマ脳炎がヒトで発生した3例目の事例。
											ウイルス感染	Transfusion 2004;44:1396	健康人の血液中にもボルナ病ウイルスの存在が確認され、輸血を介して感染する可能性が考えられる。
											HIV	Vox Sanguinis 2004;86:171-7	血液製剤のミニプール核酸増幅検査(MP-NAT)が導入されてから初めての輸血によるHIV感染事例。
											ニパウイルス	The Independent 21 Nov 2004	ニパウイルスがヒトからヒトへ伝播されるという見方を裏付ける症例。
											B型肝炎	Clin Lab 2004;50:49-51	HBs抗原(HBsAg)の変異株が、特定の市販されているイムノアッセイ・キットを用いても検出されない可能性がある。
											ウエストナイルウイルス	American Journal of Transplantation 2004;4:830-3	54歳の腎移植患者のウエストナイルウイルス感染の事例。
											ウエストナイルウイルス	Transfusion 2004;44(12):1695-9	ミニプールでの核酸検査を行ったにもかかわらず、輸血で西ナイルウイルスに感染した。
											コロナウイルス感染	J of Infectious Diseases 2005;191(4):499-502	New Haven コロナウイルス(HCoV-NH)という新規のヒトコロナウイルスが典型的な川崎病の6ヶ月令の小児の呼吸器分泌液に存在していた。
											デング熱	Nephrology Dialysis Transplantation 2005;20(2):447-8	デング熱の既往のあるドナーから、生体腎移植を受けたレシピエントが、腎移植後5日目に発熱を初発症状とする劇症のデング熱を発現したとの報告。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年2月4日	国内における変異型クロイツフェルトヤコブ病(vCJD)の発生について
											ウイルス性脳炎	CDC/MMWR 2005;54(05):123-5	日本脳炎ワクチン未接種のワシントン居住者がタイ北部に旅行し、帰国後日本脳炎を発症した事例。
											ブドウ球菌感染	CDC/MMWR 2005;54(07):168-70	血小板輸血による致死性の敗血症を起こした事例。パルスフィールドゲル電気泳動法では区別がつかなかった。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											E型肝炎	肝臓 2004;45(12):688	ブタ肝臓を摂取した6名が、E型肝炎ウイルスに感染し、うち1名が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。
											E型肝炎	J of Medical Virology 2004;74(4):563-72	透析を受けている患者のE型肝炎ウイルス罹患率について
											HIV	New York City Department of Health and Mental Hygiene Press Release 11 Feb 2005	抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行した症例が発見された
2005/5/24	50186	塩野義製薬株式会社	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロンガンマー1a(遺伝子組換え)	カザミノ酸	ウシ乳	オーストラリア、 ニュー ジーランド	製造 工程	有	無	無	BSE	J of General Virology 2004;85:2471-8	BSEプリオンを異なる系統の近交系マウスに接種すると2種類のPrP ^{sc} 型が増殖し2種類のプリオン株が分離されている可能性が示唆された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	日本消費者新聞 2004年11月9日	動物衛生研究所はBSEのウシの末梢神経と副腎からBSEの原因物質である異常プリオン蛋白を検出した。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Scienceexpress report 2005;307:1107-10	腎臓、膵臓又肝臓に5つの炎症を有するマウスにプリオンを投与したところこれらの臓器にプリオンの集積が認められたが、リンフォトキシン- α 又はその受容体を欠いたマウスの炎症臓器にはプリオンは集積しなかった。
2005/5/24	50187	塩野義製薬株式会社	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロンガンマー1a(遺伝子組換え)	バクトトリプトン	ウシ乳	オーストラリア、 ニュー ジーランド、 アメリカ	製造 工程	有	無	無	BSE	J of General Virology 2004;85:2471-8	BSEプリオンを異なる系統の近交系マウスに接種すると2種類のPrP ^{sc} 型が増殖し2種類のプリオン株が分離されている可能性が示唆された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	日本消費者新聞 2004年11月9日	動物衛生研究所はBSEのウシの末梢神経と副腎からBSEの原因物質である異常プリオン蛋白を検出した。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Scienceexpress report 2005;307:1107-10	腎臓、膵臓又肝臓に5つの炎症を有するマウスにプリオンを投与したところこれらの臓器にプリオンの集積が認められたが、リンフォトキシン- α 又はその受容体を欠いたマウスの炎症臓器にはプリオンは集積しなかった。
2005/5/24	50188	塩野義製薬株式会社	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロンガンマー1a(遺伝子組換え)	リゾチーム	ニワトリ卵白	アメリカ	製造 工程	有	無	無	ロタウイルス陽性	第52回日本ウイルス学会 学術集会 (2004/11/21-23)	トリロタウイルスが人獣共通感染症の病原体である可能性を示した研究。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											鳥インフルエンザウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2196-9	ヒトへのH7N3型トリインフルエンザ感染として初の事例。
											ウツウウイルス	Emerging Infectious Diseases 2005;11(2):298-301	ウツウウイルスがヒト由来の細胞を含め、多種の動物に由来する多様な組織型の培養細胞に感染しうることが示された。
2005/5/24	50189	塩野義製薬株式会社	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロンガンマー1a(遺伝子組換え)	パンクレアチン(プロテアーゼ)	ブタ膵臓	アメリカ、カナダ	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザウイルス	Virus Research 2004;103(1-2):67-73	ヒトのインフルエンザの宿主として、アメリカにおけるブタの重要性について。
											E型肝炎	肝臓 2004;45(12):688	ブタ肝臓を摂取した6名が、E型肝炎ウイルスに感染し、うち1名が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。
2005/5/26	50190	バクスター株式会社	人血清アルブミン	人血清アルブミン	人血漿	米国	有効成分	有	有	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2004;264:527-29	輸血に関連したvCJD伝播の可能性が疑われた事例。
											E型肝炎	Transfusion.2004;44:934-40	ブタ肝臓を接種した6名が、E型肝炎ウイルスに感染し、うち1名が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。
											E型肝炎	J Gastroenterology and Hepatology 2004;19:778-84	複数回の輸血経験群の急性E型肝炎マーカーの発現率について。
											E型肝炎	J Med Virology 2004;74:563-572	透析を受けている患者のE型肝炎ウイルス罹患率について
2005/5/26	50191	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	マウスモノクローナル抗体		有効成分	無	無	無			
2005/5/26	50192	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ヒト血清アルブミン	ヒト血液	スイス	製造工程	無	無	無			
2005/5/26	50193	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血液	ドイツ	製造工程	無	無	無			
2005/5/26	50194	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ血液	アメリカ	製造工程	無	無	無			
2005/5/26	50195	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシインスリン	ウシ膵臓抽出物	アメリカ及びカナダ	製造工程	無	無	無			
2005/5/26	50196	東レ株式会社	インターフェロンベータ	インターフェロンベータ	ヒト繊維芽細胞	日本	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/5/26	50197	東レ株式会社	インターフェロンベータ	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	添加物	有	無	無	鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
2005/5/26	50198	東レ株式会社	インターフェロンベータ	乳糖	ウシ乳	オランダ、ドイツ、ベルギー及びルクセンブルク	添加物	無	無	無			
2005/5/26	50199	東レ株式会社	インターフェロンベータ	ウシ血清	ウシ血液	オーストラリア及びニュージーランド	製造工程	無	無	無			
2005/5/26	50200	東レ株式会社	インターフェロンベータ	トリプシン	ブタ膵臓抽出物	アメリカ合衆国及びカナダ	製造工程	無	無	無			
2005/5/27	50201	日本製薬株式会社	人免疫グロブリン	免疫グロブリンG	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	Vox Sanguinis 2004;86:171-7	血液製剤のミニプール核酸増幅検査(MP-NAT)が導入されてから初めての輸血によるHIV感染事例。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	EMA/CHMP/BWP/CPMP/5136/03	vCJDのリスクに関する血漿由来医薬品の製造工程の調査についてのガイドライン
											クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2004;10(38)1-3	FDAの伝達性海綿状脳症諮問委員会(TSEAC)は血液および血液製剤によるvCJDの伝播防止措置は適切であると判断し、現行規制を変更しないこととした。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2004年10月22日	仏国で8例目のvCJD患者が報告された。仏国初の供血経験者であり、患者由来の原料が血漿分画製剤の製造に使用されていたが、血漿分画製剤による伝播の証拠はないと述べている。
											E型肝炎	ProMed20041129-0060(Daily Yomiuri 11月28日)	ブタ肝臓を接種した6名が、E型肝炎ウイルスに感染し、うち1名が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。
											B型肝炎	共同通信 2004年12月17日	HBV低濃度キャリアー献血者からの血液が、検査をすり抜け、輸血によりHBVを伝播した。
											ウエストナイルウイルス	Transfusion 2004;44(12):1695-9	ミニプールでの核酸検査を行ったにもかかわらず、輸血で西ナイルウイルスに感染した。
											A型肝炎	Transfusion 2004;44(11):1555-61.	供血後にA型肝炎を発症した供血者血液の輸血によりHAVが伝播した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年2月4日	輸血歴はなく、英国滞在歴のある国内における最初のvCJD症例が確定された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年3月7日	平成17年3月7日に開催された薬食審・血液事業部会運営委員会において協議された当面の暫定措置。1996年までに英に1日以上滞在歴がある者の献血を制限等。
2005/5/27	50202	日本製薬株式会社	乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	抗D(Rho)抗体	人血液	米国	有効成分	有	無	無	HIV	Vox Sanguinis 2004;86:171-7	血液製剤のミニプール核酸増幅検査(MP-NAT)が導入されてから初めての輸血によるHIV感染事例。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	EMA/CHMP/BWP/CP MP/5136/03	vCJDのリスクに関する血漿由来医薬品の製造工程の調査についてのガイドライン
											クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2004;10(38)1-3	FDAの伝達性海绵状脳症諮問委員会(TSEAC)は血液および血液製剤によるvCJDの伝播防止措置は適切であると判断し、現行規制を変更しないこととした。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2004年10月22日	仏国で8例目のvCJD患者が報告された。仏国初の供血経験者であり、患者由来の原料が血漿分画製剤の製造に使用されていたが、血漿分画製剤による伝播の証拠はないと述べている。
											E型肝炎	ProMed20041129-0060(Daily Yomiuri 11月28日)	ブタ肝臓を接種した6名が、E型肝炎ウイルスに感染し、うち1名が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。
											B型肝炎	共同通信 2004年12月17日	HBV低濃度キャリアー献血者からの血液が、検査をすり抜け、輸血によりHBVを伝播した。
											ウエストナイルウイルス	Transfusion 2004;44(12):1695-9	ミニプールでの核酸検査を行ったにもかかわらず、輸血で西ナイルウイルスに感染した。
											A型肝炎	Transfusion 2004;44(11):1555-61.	供血後にA型肝炎を発症した供血者血液の輸血によりHAVが伝播した。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年2月4日	輸血歴はなく、英国滞在歴のある国内における最初のvCJD症例が確定された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H17年3月7日	平成17年3月7日に開催された薬食審・血液事業部会運営委員会において協議された当面の暫定措置。1996年までに英に1日以上滞在歴がある者の献血を制限等。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/5/27	50203	財団法人日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	ミドリザル腎臓細胞	ミドリザルの腎臓	日本	製造工程	有	有	無	心筋炎	J of Parasitology 2004;90(4),870-1	スリランカのポロンナルワア地方において野生のサル170頭の血清におけるトキソプラズマ抗体の試験を行った。人間と接触の機会が多いサルのほうが森林地域で生息しているさるよりも多く抗体を保有していた。
2005/5/27	50204	財団法人日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	ウシ血清	ウシの血液	オーストラリア・ ニュー ジーランド	製造工程	有	有	無	狂犬病	ProMed20050311- 0724(sourcc correio Braziliense 9 Mar 2005)	2005年1月～2月の期間にブラジルのブラジリア連邦のFederal区域において7頭のウマおよびウシで狂犬病が診断された。この数字は2004年における狂犬病事例総数の半分に達する。
2005/5/27	50205	財団法人日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	ラクタアルブミン	ウシの乳	ニュー ジーランド	添加物	有	有	無	狂犬病	ProMed20050311- 0724(sourcc correio Braziliense 9 Mar 2005)	2005年1月～2月の期間にブラジルのブラジリア連邦のFederal区域において7頭のウマおよびウシで狂犬病が診断された。この数字は2004年における狂犬病事例総数の半分に達する。
2005/5/27	50206	財団法人日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	トリプシン	ブタの膵臓	アメリカ・ カナダ	製造工程	有	有	無	ウイルス感染	J of clinical microbiology 2005;43(2),657-661	急性胃腸炎を引き起こすノロウイルスにおいてブタと人との間で遺伝的トランсмисシオンを起こす人畜共通感染症として示唆している
2005/5/27	50207	ZLBベーリング株式会社	乾燥pH4処理人免疫グロブリン	人免疫グロブリンG	ヒト血液	ドイツ	有効成分	有	有	無	人畜共通感染症	QJ Med 2005;98:255-74	ヒトの精神神経疾患におけるBVD感染との関連性について。
2005/5/30	50208	大塚製薬株式会社	インターフェロン ガンマー-n1	インターフェロン ガンマー-n1	ヒトミエロモノサイト細胞株	アメリカ	有効成分	無	無	有			
2005/5/30	50209	大塚製薬株式会社	インターフェロン ガンマー-n1	人血清アルブミン	ヒト血液	アメリカ	添加物	無	無	有			
2005/5/30	50210	大塚製薬株式会社	インターフェロン ガンマー-n1	ウシ胎仔血清	ウシ血液	アメリカ、 オーストラ リア、 ニュー ジーランド	製造工程	無	無	有			
2005/5/30	50211	大塚製薬株式会社	インターフェロン ガンマー-n1	抗ハムスター胸腺細胞ウサギ抗血清	ウサギ血液	アメリカ	製造工程	無	無	有			
2005/5/30	50212	大塚製薬株式会社	インターフェロン ガンマー-n1	抗IFN-γモノクローナル抗体	マウスハイブリドーマ	イギリス	製造工程	無	無	有			
2005/5/30	50213	大塚製薬株式会社	インターフェロン ガンマー-n1	ハムスター(ヒトミエロモノサイト細胞株を皮下で増殖)	ハムスター	日本	製造工程	無	無	有			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/5/30	50214	日本赤十字社	解凍人赤血球濃厚液	解凍人赤血球濃厚液	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	Eurosurveillance Weekly 2005;10(8)	抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行した症例が発見された
											HIV	IASR(共同通信2004年12月3日)	在日外国人のHIV-2型感染が確認された。
											細菌感染	J of Clinical Microbiology 2004; 42(10): 4759-64	血小板製剤に混入した細菌の検出法として、23S rRNAとgroEL遺伝子を利用したreal-time RT PCRが開発された。その感度は、大腸菌125 CFU/mLを検出した
											細菌感染	日本輸血学会雑誌2004; 50(5): 726-9	敗血症性ショックとの関連が疑われた血小板製剤からM. organii が検出され、輸血による細菌感染が示唆された。
											マラリア	ABC newsletter 2004年12月3日	米国疾病管理予防センターは、ドミニカ共和国のアルタグラシア州およびデュアルテ州を訪れた旅行者2名のマラリア感染報告を受け、旅行者に対する予防措置の勧告内容を拡大する。
											マラリア	CDC 2005年1月12日	国疾病対策予防センター(CDC)は、2004年12月26日に発生した大地震および津波の被災地域に居住する米国人に現在の健康上、安全上のリスクに関する情報を通知し、これらのリスクを最小限とするために講じる措置についてのガイダンスを提供する。
											マラリア	ProMed20050325-0070(Daily Times 3月24日)	パキスタンのカラチ市でマラリア感染が広がっている。
											マラリア	Vox Sanguinis 2005 ;88(3):200-1	現在のドナー選択ガイドライン基準を満たし、また8年間以上英国を出国していないガーナからの供血者による輸血マラリア感染
											クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Neuroscience 2004; 24(50):11280-90	ウシ海綿状脳症(BSE)の代用マーカーとして用いられているスクレイビー・プリオン(PrP ^{Sc})がin vitroにおいてフェリチンと結合し、これがヒト腸上皮細胞バリア突破機序に関連することを示した研究。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Neurology 2005 ;64(5):905-7	R208H変異がPrP ^{Sc} の特性や疾患の表現型には大きな変化を与えずに疾患感受性に影響を及ぼす。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Proceedings of National academy Science 2005;102(9):3501-6	クロイツフェルト・ヤコブ病の診断には構造依存性免疫試験(CDI)を行うより正確に行える。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Clinical Microbiol 2005;43(3):1118-1126	レクチン(RCA)結合性を比較することでsCJDとvCJDのプリオンタンパク質が識別できる可能性がある。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Irish Blood Transfusion Service 2004年10月31日	アイルランド輸血サービスはvCJD伝播リスク低減のため、英国潜在歴や手術歴等に新たな供血制限を発表した。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20041124-0040(AFP記事11月23日)	フランスで9例目となるvCJD患者の頻回献血が報告された。該当血液は既に使用されている種、受血者の追跡調査を発表した。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2004;306(5702):1793-6	129位のアミノ酸がバリンであるヒトプリオン蛋白質は変異型クロイツフェルトヤコブ病(vCJD)の発現を阻止する。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2004年12月17日	オランダは血液を介したvCJD伝播への懸念から2004年12月9日、供血者に関する新たな禁止措置を実施することを発表した。
											BSE	ProMed20050129-0060(BBC News 1月28日)	フランスのヤギが狂牛病検査の結果、陽性であることが判明した。これは、ウシ以外の食用動物が牛海綿体脳症(BSE)に感染した初めての事例である。
											BSE	ProMed20050204-0030(EU press Rereases 2 Feb 2005)	フランスのヤギが狂牛病検査の結果、陽性であることが判明したことから、欧州委員会は、ヤギの検査数を4倍に増やす計画である
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050205-0040(共同ニュース 2月4日)	本邦において初の変異型ヤコブ病(vCJD)患者が確認された。
											BSE	ABC newsletter 2005年2月11日	スコットランドにおいて、BSEに感染したヤギが1990年には存在していた。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Yahoo health 2005年3月3日	モロッコで初めてvCJDの疑いのある患者が死亡した。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005 ;365(9461):781-3	BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジェネートの経口摂取により神経症状を発症したが、もう1頭は無症状であった。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											鳥インフルエンザウイルス	WHO/CSR,Influenza 2005年12月30日	高病原性鳥インフルエンザによる感染がベトナムで拡大している。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):686-91	呼吸器症状を示さず、脳炎と消化器症状を呈する高病原性トリインフルエンザA(H5N1型)の症例が報告された。
											ウイルス感染	Transfusion 2004;44 Supplement:16A-17A, S47-0301	感染性不活化技術の一つリボフラビンで処理された血小板製剤は、未処理製剤に比べ代謝亢進や回収率低下、体内生存期間短縮が認められたが、臨床的には有用である
											ニパウイルス	ProMed20041123-0030(The Independent Bangladesh) Indendependent, Bangladesh, 11月21日	ニパウイルス感染患者からのヒト-ヒト感染が疑われる死亡症例が報告された。
											マールブルグ病	ProMed20050323-0100(Reuters Alertnet Foundation)	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。
											デング熱	Clinical Infectious Diseases 2004 ;39(6):56-60.	顔面にデング熱患者の血液飛沫を受けた医療従事者が、同ウイルスに感染した。
											ウエストナイルウイルス	ABC newsletter 2004年11月5日	FDAはWNVに対する供血延期期間を28日から56日に拡大することを勧告した。
											ウエストナイルウイルス	ProMed20050125-0070(ウイルス学生物工学研究センターDr. Valery B.Loktev 1月24日)	ウエストナイルウイルス(WNV)が現在ロシア極東地域で循環していることが確認された
											A型肝炎	AABB ASSOCIATION BULLETIN#04-08	米国血液銀行協会(aaBB)は、血液採取施設に対してA型肝炎ウイルス(HAV)流行時に地方自治体の保険当局が行う具体的な措置に従って供血延期措置を実施するよう勧告した。
											B型肝炎	Hepatology 2004;40(5):1072-7	カナダの都市部で血液透析を受けている成人患者のoccultHBV(B型肝炎表面高陰性)、HBV-DNA陽性)保有率は3.8%(241名中9名)であり、ほとんどがウイルス量は低く、sG145R変異体の保有率が高かった。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											B型肝炎	ABC newsletter 2004年10月22日	FDA血液製剤問委員会は、HBc抗体陽性者に新たな検査方法を加え供血者のエントリーを可能とするよう勧告した。
											B型肝炎	American Society of Hepatology46th Annual Meeting2259	B型肝炎の既往症を有する14名(HBs抗体陽性)の患者に対して実施された同種造血幹細胞移植では、HBVが再活性化しているリバセロコンバージョンとなる可能性が示された。
											B型肝炎C型肝炎	Vox Sanguinis 2005;88(1):10-6	日本の献血者においてNATにより検出されたハイリスドナーはHBV,HCV双方とも主に若年者で、入院患者とは異なるgenotypeの分布を有する。HBVの稀なgenotypeHが日本で始めて発見された。本調査結果は若年層にHBV,HCVが広がっていることを反映しているとの報告である。
											B型肝炎	J of General Virology 2005; 86: 595-9	本邦の献血者において、遺伝子型がHのHBV事例が初めて発見され、現行のNATスクリーニングで検出された。
											B型肝炎	Eurosurveillance ;10(11)2005年3月17日	ベルギーとアメリカの老人ホームで採血器具の不適切な使用によりHBV感染が集団発生した。
											C型肝炎	Hepatology 2005;41(1):115-22	HCVの感染は肝疾患病棟、特に長期間の入院を要する患者において、患者から患者のルートで発生しているようである
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005; 75(3): 399-401	英国において、麻酔の手順上、感染のおそれがない状況下で麻酔科医から患者にHCVが伝播した最初の報告である。このことから、輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートについて考慮する必要がある
											E型肝炎	J of Medical Virology 2004;74(4):563-72	透析を受けている患者のE型肝炎ウイルス罹患率について
											E型肝炎	ProMed20041129-0060(Daily Yomiuri 11月28日)	ブタ肝臓を摂取した6名が、E型肝炎ウイルスに感染し、うち1名が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。
											E型肝炎	肝臓2004; 45 (Suppl3)日本肝臓学会東部会講演要旨No117	ブタ肝臓を接種した6名が、E型肝炎ウイルスに感染し、うち1名が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。
2005/5/31	50215	セローノ・ジャパン株式会社	胎盤性性腺刺激ホルモン	胎盤性性腺刺激ホルモン	人尿	韓国	有効成分	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/5/31	50216	セローノ・ジャパン株式会社	精製下垂体性腺刺激ホルモン	抗FSHマウスモノクローナル抗体	マウス	イタリア	製造工程	無	無	無			
2005/5/31	50217	セローノ・ジャパン株式会社	精製下垂体性腺刺激ホルモン	乳糖	ウシ	英国及びポルトガルを除く	添加物	有	無	無	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE 2004年10月1日号 Vol.17 No.40	米国における水疱性口内炎Follow-up report No. 6報告終了日-2004年9月21日 新規アウトブレイク-Texas州などの合計32農場 新規アウトブレイクの動物総数-ウシにおいて 疑い例396例, 症例13例 ”
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE 2004年11月12日号 Vol.17 No.46	米国における水疱性口内炎Follow-up report No. 7報告終了日-2004年10月26日 新規アウトブレイク-Colorado州Adams群などにおける合計53農場(ニューメキシコまたはテキサス州において2004年9月22日~2004年10月26日に新たな症例は確認されていない)新規アウトブレイクの動物総数-ウシにおいて疑い例792例, 症例10例 ”
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE 2004年11月26日号 Vol.17 No.48	米国における水疱性口内炎Follow-up report No. 8報告終了日-2004年11月16日 新規アウトブレイク-コロラド州, ニューメキシコ州における計33件2004年9月22日~2004年11月26日にテキサス州における症例は検出されていない。新規アウトブレイクにおける動物数-コロラド州:ウシにおいて疑い例1176例, 症例12例 病因-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey病原/感染源-不明拡大様式-不明 ”
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE 2004年12月10日号 Vol.17 No.50	米国における水疱性口内炎Follow-up report no9今回報告終了日-2004年11月30日新規アウトブレイク-NewMexico州における1件、Colorado州における2件。新規アウトブレイクにおける動物数-コロラド州:ウシにおいて疑い例15例 病因-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey病原
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE 2005年1月7日号 Vol.18 No.1	米国における水疱性口内炎Follow-up report No. 10報告終了日-2005年1月6日 新規アウトブレイク-コロラド州における1件 新規アウトブレイクにおける動物数-コロラド州:ウシにおいて疑い例250例 病因-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey ”

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	ProMed20050501-0030(OIE)	米国における水疱性口内炎について流行終息宣言地域における再発生。2005年4月28日現在。
											炭疽	ProMed20041105-0060(OIE)	フィンランドでの炭疽。動物の異常の初検知日：2004年10月5日。事例発生地：フィンランド南部。流行中の動物個体数：ウシ39頭。症例数/死亡症例数：2頭。感染源：汚染された飼料。感染対策：隔離および国内での移動管理。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページ H16年11月1日	BSE感染が確認された農場で死亡した94か月齢の牛から末梢神経組織の一部や副腎に異常プリオンたん白質が見つかったという報告である。
											BSE	厚生労働省ホームページ H17年3月23日	“牛海綿状脳症(BSE)の検査結果について 牛海綿状脳症(BSE)のスクリーニング検査結果の週報が更新されています(平成17年3月13日-3月19日搬入分)。陽性の牛;1件, 検査中の牛;0件であることなど記載。
											BSE	厚生労働省ホームページ H17年年5月6日	BSEスクリーニング検査結果について。全牛検査開始以降にBSEと診断された牛は12頭。
											BSE	厚生労働省ホームページ H17年3月27日	“牛海綿状脳症(BSE)確定診断の結果について平成17年3月27日に「牛海綿状脳症の検査に係る専門家会議」委員による検討の結果、牛(平成17年3月24日処理;雄;ホルスタイン;108ヵ月令;飼育地は北海道天塩町)がBSEであるとの結論を得たことについて。
											BSE	ProMed20041231-0020(Canadian Press)	カナダ食品検査局は、BSE疑い症例が検知されたと発表。食品検査局では、予備的な検査結果は、12月29日に判明したとし、検査は問題の個体が歩行困難と確認されたのを受けて実施されたと加えた。今回の検査結果は最終的ではなく、同局は、複数のスクリーニング検査で陽性反応が得られたが、陽性となった個体の組織は、ヒトの食糧や家畜の肥料としては使用されていないとしている。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											BSE	ProMed20050103-0020(カナダ食品検査局)	疑い動物でBSE感染の診断確定、調査が進行中。カナダ食品検査局(CFIA)は本日[2004年1月2日]、アルバータ州の高齢の乳牛が検査で牛海綿状脳症(BSE)陽性となったことを確認した。感染が確認された個体は、1997年の飼料規制導入以前の1996年に誕生した。このウシは、飼料規制以前に汚染された飼料から感染したと考えられている。BSE確定症例のいかなる部分も、ヒトおよび動物飼料の食物連鎖に入っていない。この発見は、食品安全上の危険性増加にはあたらない。
											BSE	ProMed20050109-0020(OIE)	カナダの全国(BSE)サーベイランス計画により、アルバータ州の7歳未満の個体で、ウシ海綿状脳症(BSE)感染を確認したと発表した。
											BSE	ProMed20050112-0020(CFIA)	カナダの全国(BSE)サーベイランス計画により、アルバータ州の7歳未満の個体で、ウシ海綿状脳症(BSE)感染を確認したと発表した。
											BSE	ProMed20050126-0070(OIE)	カナダの全国(BSE)サーベイランス計画により、アルバータ州の7歳未満の個体で、ウシ海綿状脳症(BSE)感染を確認したと発表した。
											BSE	ProMed20041119-0010 (Associated Press)	新たなBSE疑い例。農務省当局は11月18日、米国で2例目となるBSE症例が確認される可能性がでたと発表。
											結核	ProMed20050208-0070 (ネブラスカ州農業局)	最近ネブラスカ州で発見された牛結核(TB)症例(屠殺時陽性確認)の調査に積極的な取り組み。
2005/5/31	50218	セローノ・ジャパン株式会社	精製下垂体性性腺刺激ホルモン	精製下垂体性性腺刺激ホルモン	人尿	中国	有効成分	有	無	無	デング熱	ProMed20041102-0010(China Economic Information Service)	中国東部の省で発生しデング熱流行は制圧された。
											デング熱	ProMed20041119-0050(新華通信)	今月(2004年11月)51歳女性がデング熱に罹患したことが発見され、今年(2004年)マカオにおける2例目のデング熱患者となった。
											デング熱	ProMed20050118-0030 (香港衛生署)	香港衛生署の健康保護センター(CHP)は、デング熱輸入患者1名を確認し、市民に対しデング熱について注意を喚起した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											デング熱	ProMed20050408-0010(香港News4月4日)	香港 保健保護センターは44才女性のデング熱確定患者を診断確定し、2005年のデング熱患者総数は3名となり、全員が輸入例である。
											デング熱	ProMed20050424-0010(香港News4月21日)	香港 保健保護局は31才男性のデング熱輸入患者を確定し、今年の患者総数は5名となり、全例が輸入患者である。
2005/6/3	50219	興和株式会社	ウロキナーゼ	精製ゼラチン	ウシの骨、ブタの皮	ウシの骨(インド)、ブタの皮(日本)	添加物	無	無	無			
2005/6/8	50220	エーザイ株式会社	モンテプラゼ(遺伝子組換え)	遺伝子組換え細胞	ペビーハムスターの腎臓	10数年前に樹立したマスターセルバンクに使用した細胞株のため原産国不明	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	ProMed20041201-0050(厚生労働省ホームページ2004年12月1日)	インド(Madhya Pradesh州)で原因不明の疾患で死亡続発。
											ウイルス感染	ProMed20041219-0030(Jakarta post 12 Dec 2005)	インドネシア(イリアンジャヤ地方)で原因不明の大量死(過去2年間で乳児97名の死亡)
											川崎病	ProMed20050120-0050(Medical News Today19 Jan 2005)	SARSウイルスに近縁な新規発見ウイルスが川崎病の原因になっている可能性がある」と米国の研究者らにより2005年1月18日報告された。
											ウイルス感染	ProMed20050209-0070(厚生労働省ホームページ2005年2月9日)	アフガニスタンで過去2年間で原因不明の呼吸器疾患で21名以上が死亡
											心筋炎	ProMed20050211-0040(ソニー大学小児病院),20050224-0080(The Island)	スリランカで原因不明の心筋症発生について。2005年2月11日～
											心筋炎	ProMed20050301-0060(The Daily News2月28日)20050322-0050(WHO/GSR)	スリランカで原因不明の心筋症発生について。WHO調査チーム派遣。
											心筋炎	The Daily News 28 Feb 2005 WHO/ CSR; 17 Mar 2005	スリランカで原因不明の心筋症発生について。2005年3月17日～

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											心筋炎	Epidemiological Record 2005;80(12):101-12	スリランカで原因不明の心筋症発生について。
											ウイルス感染	ProMed20050228-0030(TheJakartaPost2月25日)	インドネシアで原因不明の下痢で149名中19名が死亡。
											ウイルス感染	ProMed20050402-0050(Thanh Nien Daily 4月1日)	ベトナムで原因不明の疾患のため2名死亡、120名発病。問題の疾患は足と腕の麻痺を生じる。
2005/6/8	50221	エーザイ株式会社	モンテプラゼ(遺伝子組換え)	抗モンテプラゼモノクローナル抗体	マウス腹水	日本	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	ProMed20041201-0050(厚生労働省ホームページ2004年12月1日)	インド(Madhya Pradesh州)で原因不明の疾患で死亡続発。
											ウイルス感染	ProMed20041219-0030(Jakarta post 12 Dec 2005)	インドネシア(イリアンジャヤ地方)で原因不明の大量死(過去2年間で乳児97名の死亡)
											川崎病	ProMed20050120-0050 (Medical News Today19 Jan 2005)	SARSウイルスに近縁な新規発見ウイルスが川崎病の原因になっている可能性があるとの米国の研究者らにより2005年1月18日報告された。
											ウイルス感染	ProMed20050209-0070(厚生労働省ホームページ2005年2月9日)	アフガニスタンで過去2年間で原因不明の呼吸器疾患で21名以上が死亡
											心筋炎	ProMed20050211-0040(シドニー大学小児病院).20050224-0080 (The Island)	スリランカで原因不明の心筋症発生について。2005年2月11日～
											心筋炎	ProMed20050301-0060(The Daily News2月28日) 20050322-0050 (WHO/CSR)	スリランカで原因不明の心筋症発生について。WHO調査チーム派遣。
											心筋炎	The Daily News 28 Feb 2005 WHO/ CSR; 17 Mar 2005	スリランカで原因不明の心筋症発生について。2005年3月17日～
											心筋炎	Epidemiological Record 2005;80(12):101-12	スリランカで原因不明の心筋症発生について。
											ウイルス感染	ProMed20050228-0030(TheJakartaPost2月25日)	インドネシアで原因不明の下痢で149名中19名が死亡。
											ウイルス感染	ProMed20050402-0050(Thanh Nien Daily 4月1日)	ベトナムで原因不明の疾患のため2名死亡、120名発病。問題の疾患は足と腕の麻痺を生じる。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/6/8	50222	エーザイ株式会社	モンテプラゼ(遺伝子組換え)	トリブシン	ブタ膵臓	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	ProMed20041201-0050(厚生労働省ホームページ2004年12月1日)	インド(Madhya Pradesh州)で原因不明の疾患で死亡続発。
											ウイルス感染	ProMed20041219-0030(Jakarta post 12 Dec 2005)	インドネシア(イリアンジャヤ地方)で原因不明の大量死(過去2年間で乳児97名の死亡)
											川崎病	ProMed20050120-0050(Medical News Today19 Jan 2005)	SARSウイルスに近縁な新規発見ウイルスが川崎病の原因になってる可能性があるとして米国の研究者らにより2005年1月18日報告された。
											ウイルス感染	ProMed20050209-0070(厚生労働省ホームページ2005年2月9日)	アフガニスタンで過去2年間で原因不明の呼吸器疾患で21名以上が死亡
											心筋炎	ProMed20050211-0040(ソニー大学小児病院),20050224-0080(The Island)	スリランカで原因不明の心筋症発生について。2005年2月11日～
											心筋炎	ProMed20050301-0060(The Daily News2月28日)20050322-0050(WHO/CSR)	スリランカで原因不明の心筋症発生について。WHO調査チーム派遣。
											心筋炎	The Daily News 28 Feb 2005 WHO/ CSR; 17 Mar 2005	スリランカで原因不明の心筋症発生について。2005年3月17日～
											心筋炎	Epidemiological Record 2005;80(12):101-12	スリランカで原因不明の心筋症発生について。
											ウイルス感染	ProMed20050228-0030(TheJakartaPost2月25日)	インドネシアで原因不明の下痢で149名中19名が死亡。
											ウイルス感染	ProMed20050402-0050(Thanh Nien Daily 4月1日)	ベトナムで原因不明の疾患のため2名死亡、120名発病。問題の疾患は足と腕の麻痺を生じる。
2005/6/8	50223	エーザイ株式会社	モンテプラゼ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血清	米国、オーストラリア、ニュージーランド、コスタリカ、ニカラガア、エルサルバドル、パナマ	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	ProMed20041201-0050(厚生労働省ホームページ2004年12月1日)	インド(Madhya Pradesh州)で原因不明の疾患で死亡続発。
											ウイルス感染	ProMed20041219-0030(Jakarta post 12 Dec 2005)	インドネシア(イリアンジャヤ地方)で原因不明の大量死(過去2年間で乳児97名の死亡)

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											川崎病	ProMed20050120-0050 (Medical News Today19 Jan 2005)	SARSウイルスに近縁な新規発見ウイルスが川崎病の原因になっている可能性があるとして米国の研究者らにより2005年1月18日報告された。
											ウイルス感染	ProMed20050209-0070(厚生労働省ホームページ2005年2月9日)	アフガニスタンで過去2年間で原因不明の呼吸器疾患で21名以上が死亡
											心筋炎	ProMed20050211-0040(ソニー大学小児病院),20050224-0080 (The Island)	スリランカで原因不明の心筋症発生について。2005年2月11日～
											心筋炎	ProMed20050301-0060(The Daily News2月28日) 20050322-0050 (WHO/CSR)	スリランカで原因不明の心筋症発生について。WHO調査チーム派遣。
											心筋炎	The Daily News 28 Feb 2005 WHO/ CSR; 17 Mar 2005	スリランカで原因不明の心筋症発生について。2005年3月17日～
											心筋炎	Epidemiological Record 2005;80(12):101-12	スリランカで原因不明の心筋症発生について。
											ウイルス感染	ProMed20050228-0030(TheJakartaPost2月25日)	インドネシアで原因不明の下痢で149名中19名が死亡。
											ウイルス感染	ProMed20050402-0050(Thanh Nien Daily 4月1日)	ベトナムで原因不明の疾患のため2名死亡、120名発病。問題の疾患は足と腕の麻痺を生じる。
2005/6/8	50224	エーザイ株式会社	モンテプラーゼ(遺伝子組換え)	プラスミン	ウシ血清	ニュージーランド	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	ProMed20041201-0050(厚生労働省ホームページ2004年12月1日)	インド(Madhya Pradesh州)で原因不明の疾患で死亡続発。
											ウイルス感染	ProMed20041219-0030(Jakarta post 12 Dec 2005)	インドネシア(イリアンジャヤ地方)で原因不明の大量死(過去2年間で乳児97名の死亡)
											川崎病	ProMed20050120-0050 (Medical News Today19 Jan 2005)	SARSウイルスに近縁な新規発見ウイルスが川崎病の原因になっている可能性があるとして米国の研究者らにより2005年1月18日報告された。
											ウイルス感染	ProMed20050209-0070(厚生労働省ホームページ2005年2月9日)	アフガニスタンで過去2年間で原因不明の呼吸器疾患で21名以上が死亡

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											心筋炎	ProMed20050211-0040(ソニー大学小児病院).20050224-0080 (The Island)	スリランカで原因不明の心筋症発生について。2005年2月11日～
											心筋炎	ProMed20050301-0060(The Daily News2月28日) 20050322-0050 (WHO/CSR)	スリランカで原因不明の心筋症発生について。WHO調査チーム派遣。
											心筋炎	The Daily News 28 Feb 2005 WHO/ CSR; 17 Mar 2005	スリランカで原因不明の心筋症発生について。2005年3月17日～
											心筋炎	Epidemiological Record 2005;80(12):101-12	スリランカで原因不明の心筋症発生について。
											ウイルス感染	ProMed20050228-0030(TheJakartaPost2月25日)	インドネシアで原因不明の下痢で149名中19名が死亡。
											ウイルス感染	ProMed20050402-0050(Thanh Nien Daily 4月1日)	ベトナムで原因不明の疾患のため2名死亡、120名発病。問題の疾患は足と腕の麻痺を生じる。
2005/6/8	50225	エーザイ株式会社	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	抗不純蛋白質抗体	ウサギ血清	日本	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	ProMed20041201-0050(厚生労働省ホームページ2004年12月1日)	インド(Madhya Pradesh州)で原因不明の疾患で死亡続発。
											ウイルス感染	ProMed20041219-0030(Jakarta post 12 Dec 2005)	インドネシア(イリアンジャヤ地方)で原因不明の大量死(過去2年間で乳児97名の死亡)
											川崎病	ProMed20050120-0050 (Medical News Today19 Jan 2005)	SARSウイルスに近縁な新規発見ウイルスが川崎病の原因になってる可能性があるとして米国の研究者らにより2005年1月18日報告された。
											ウイルス感染	ProMed20050209-0070(厚生労働省ホームページ2005年2月9日)	アフガニスタンで過去2年間で原因不明の呼吸器疾患で21名以上が死亡
											心筋炎	ProMed20050211-0040(ソニー大学小児病院).20050224-0080 (The Island)	スリランカで原因不明の心筋症発生について。2005年2月11日～
											心筋炎	ProMed20050301-0060(The Daily News2月28日) 20050322-0050 (WHO/CSR)	スリランカで原因不明の心筋症発生について。WHO調査チーム派遣。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											心筋炎	The Daily News 28 Feb 2005 WHO/ CSR; 17 Mar 2005	スリランカで原因不明の心筋症発生について。2005年3月17日～
											心筋炎	Epidemiological Record 2005;80(12):101-12	スリランカで原因不明の心筋症発生について。
											ウイルス感染	ProMed20050228-0030(TheJakartaPost2月25日)	インドネシアで原因不明の下痢で149名中19名が死亡。
											ウイルス感染	ProMed20050402-0050(Thanh Nien Daily 4月1日)	ベトナムで原因不明の疾患のため2名死亡、120名発病。問題の疾患は足と腕の麻痺を生じる。
2005/6/10	50226	日本シェーリング株式会社	ヘパリンカルシウム	ヘパリンカルシウム	ブタ腸粘膜	中国	有効成分	有	無	無	E型肝炎	厚生労働省ホームページ H16年11月29日	ブタ肝臓を接種した6名が、E型肝炎ウイルスに感染し、うち1名が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。(肝臓2004;45(12):688)
2005/6/13	50227	財団法人 化学及血清療法研究所	抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs人免疫グロブリン	ヒト血液	米国	有効成分	有	無	無	E型肝炎	Transfusion 2004;44(6):934-40	海外渡航歴が全くない67歳の日本人男性患者が、23名のドナーからの輸血を受け、その後に原因不明の急性肝炎に罹患した。急性期の患者の血液サンプルの肝炎ウイルスマーカーを調べたところ、HEV抗体のIgMとIgGだけでなく、HEVのRNAも含んでいた。また、輸血したFFPユニットの1つからもHEV RNAを検出した。患者とドナーのPCR産物は、ORF1内の2つのHEVに特長的な領域が完全な同一性を示した。
											A型肝炎	Transfusion 2004;44(11):1555-61	供血後にA型肝炎を発症した供血者血液の輸血によりHAVが伝播した。
											鳥インフルエンザウイルス	厚生労働省ホームページ H16年12月22日	国内(京都)で集団発生した高病原性鳥インフルエンザに関連して、防疫作業従事者等を対象に血清抗体価等の調査を行った結果、対照群と比較して抗体陽性率が高かった。このことから、長期にわたり組織的な感染防御なしに病鳥との接触や汚染環境との接触などが行われていたことから、個人防護具の着用なしに作業に従事していたことにより高率に感染が起こった可能性が示唆された。
											ロタウイルス陽性	第52回日本ウイルス学会学術集会 (2004/11/21-23)	トリロタウイルスが人獣共通感染症の病原体である可能性が示された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											マールブルグ病	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。
2005/6/13	50228	株式会社ベネシス	ポリエチレングリコール処理抗破傷風人免疫グロブリン 乾燥抗破傷風人免疫グロブリン	破傷風抗毒素	人血液	米国	有効成分	有	無	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	BBC News 2004年11月10日	アイルランド共和国において、英国滞在歴のないvCJD患者が初めて確認された。この患者は輸血を受けたことはないし、供血したこともない。アイルランド共和国では以前にvCJDと診断された症例があるが、この患者はある時期英国に滞在していた。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Scienceexpress report 2004年11月11日	BSE由来プリオンでのヒトへの1次及び2次感染は、プリオンソース及びレシピエントの遺伝型の如何により、孤発性CJD様表現型もしくはvCJDに加えてさらに新規の表現型をもたらす可能性があり、また、ヒトプリオン病の患者全てをPrPScのタイプに分類したサーベランスを行なうことによって、BSE曝露パターンやvCJDプリオンの病原性ソースに関連した新規のPrPScタイプや特定のPrPScサブタイプの相対的頻度の変化を早期に発見できるであろうとする報告である。
											サルパルボウイルス	J of Infectious Diseases 2004;190(11)1900-7	サルのパルボウイルス病が潜在的な人畜共通の伝染病と認識することに関する研究。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Neuroscience 2004; 24(50):11280-90	ウシ海綿状脳症(BSE)の代用マーカーとして用いられているスクレイピー・プリオン(PrPSc)がin vitroにおいてフェリチンと結合し、これがヒト腸上皮細胞バリア突破機序に関連することを示した研究。
											A型肝炎	AABB Weekly Report 2004;10(44) 3	米国血液銀行協会(AABB)は会員に対し、共通の感染源に由来するA型肝炎ウイルス(HAV)の流行に曝露された可能性のある供血者の取扱いについて、HAVに最後に曝露された可能性がある日から120日間供血停止することを勧告する。また、供血者がHAVに曝露されている可能性がある場合には当該製品の回収の勧告について審議する。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											鳥インフルエンザウイルス	RIVM rapport 630940003. Bilthoven: RIVM	2003年、オランダのH7N7鳥インフルエンザアウトブレイクコントロール期間内のリスクファクター、健康、福祉、ヘルスケアニーズと予防措置に関する調査結果。調査対象となった養鶏場従業員関係者の約千人が鳥インフルエンザに感染していた。調査結果の主な内容:①抗ウイルス薬のオセルタミビルは感染防御効果が見られたが、マスクやゴーグルでは見られなかった。②発症した453人の主要症状は結膜炎で、そのうち89人から鳥インフルエンザウイルスが検出され、そのうち3人は家禽との接触はなく、感染した人との接触のみであった。③感染した家禽業者と接触した家族の59%で抗体が検出された。④流行中感染した家禽と接触した500人のうち約50%に抗体が検出された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Sciencexpress report 2005;307:1107-10	腎臓、脾臓又肝臓に5つの炎症を有するマウスにプリオンを投与したところこれらの臓器にプリオンの集積が認められたが、リンフォトキシン- α 又はその受容体を欠いたマウスの炎症臓器にはプリオンは集積しなかった。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
											デング熱	Nephrology Dialysis Transplantation 2005; 20(2)447-8	デング熱の既往のあるドナーから、生体腎移植を受けたレシピエントが、腎移植後5日目に発熱を初発症状とする劇症のデング熱を発現したとの報告。
											HIV	The New York City Department of Health and Mental Hygiene Press Release 11 Feb 2005	抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行した症例が発見された。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(7):686-91	H5N1インフルエンザの臨床スペクトルに属する疾患について、これまで考えられていた範囲よりも、より広い範囲にわたるものであることが示唆された事例。
											ニパウイルス	Health and Science Bulletin,2(2),2004	2004年2月19日~4月16日にバングラデシュ Faridpur地区の住民36人がニパウイルスに感染し、27人が死亡した。患者23人の血清中にニパウイルスのIgM抗体が確認され、患者数名の喉拭き取りサンプルからニパウイルスRNAが検出された。濃厚接触のあったこれらの患者の家族間などに飛沫感染によると思われるヒトからヒトへのニパウイルス感染拡大が見られた。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											ハンタウイルス	Microbiology and Immunology 2004;48 (11):843	2000年～2003年の日本各地におけるげっ歯類のハンタウイルス感染についての疫学調査結果。
											HTLV	The New York Times, February 26, 2005	アメリカの科学者は2005年2月25日、AIDSを起すウイルスと同じレトロウイルスに属する2つの新しいヒトのウイルスを発見したと述べた。これらウイルスは、サル及び他の霊長動物を狩猟するカメルーンの地方の人々に見出され、狩猟、食肉化、ペットとして飼ったときに咬まれたり引っ掻かれたりして、血液を介して伝播した可能性がある。第12回Annual Retrovirus Conferenceにおいて公表された。これらのレトロウイルスをHTLV-3及びHTLV-4と名づけたが、従来のHIVやHTLVと似ているのかまだ判っておらず、ヒトにどの程度伝播するのかカメルーンのヒト4000人について更に検査する計画である。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	PNAS,102(9),3501/2005	CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるために、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白質(rPrPsc)もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白質(sPrPsc)も両方の異常プリオン蛋白質(PrPsc)を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。大多数のイムノアッセイ法では、孤発性CJD(sCJD)患者の脳の灰白質及び白質の両方で全PrPscの90%あまりを占めるsPrPscが正常プリオン蛋白質(PrPc)を除去するためのプロテアーゼ処理中に消化されてしまうことにより、PrPsc量を過小評価することになることが明らかとなった。孤発性CJD患者8人から18の脳部位が組織学法、免疫組織化学法(IHC)、CDI法で検索したところ、それぞれ3部位(17%)、4部位(22%)、18部位(100%)が陽性であり、CDIはより高感度であるため、IHCが免疫診断技法の中でスタンダードとして使用されるべきでない。扁桃や虫垂がIHCによってのみ評価されているため、検出しそこなっている可能性がある。多数のプリオンサンプルをCDIで検査することによって、プリオン病の疫学が変わるかもしれない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											マールブルグ病	WHO/CSR 2005年3月23日	アンゴラにおけるウイルス性出血性熱の流行の病原体は、マールブルグウイルスであることが確認された。3月21日に死亡した12症例のうち9例からこのウイルスが検出された。2004年10月以降現在まで102名が感染し、95名が死亡している。これまでにマールブルグウイルス感染症例は、1967年にウガンダから輸入した感染サルに接触したドイツ及びユーゴスラビアの検査技師31人(7人死亡)、1975年にジンバブエで3人(1人死亡)、1980年にケニアで2人(1人死亡)、1987年にケニアで1人(1人死亡)、1998年～2000年にコンゴで149人(123人死亡)が報告されている。このウイルス感染症の発生は大変まれでアフリカ大陸南部の国に限定されるように思われる。ヒト-ヒト感染が可能で、患者のケア中にしばしば起きる。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	International Journal of Epidemiology 2005;34:46-52	フランスはvCJD症例数が世界で2番目に高い国であり、英国から輸入した牛肉(英国の牛肉総輸出量の60%がフランスに輸出)によるBSEの曝露がその主な原因と考えられる。フランスにおける将来のvCJD発症数を、感染性のある牛肉製品の接種量や1980～1995年に英国に滞在した期間などのシミュレーションから予測した。シミュレーション結果から将来のvCJD発症数は33症例と予測された。英国での滞在期間はvCJD発症数に影響を及ぼさなかった。
											マラリア	Vox Sanguinis 2005 ;88(3):200-1	現在のドナー選択ガイドライン基準を満たし、また8年間以上英国を出国していないガーナからの供血者による輸血マラリア感染
											ウエストナイルウイルス	GBER Guidance for Industry April 2005	本ガイダンス案は、FDAが先に発行した2003年5月付のWNV感染した血液ドナーに関するガイダンスの改訂案である。今回は「発熱を伴った頭痛」を有するドナーは供血禁止とされず、また、再登録には個別NATで陰性の確認が必要などの変更点があげられている。
											ウイルス感染	Transfusion 2005;45(4): 500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Cell 2005;121(2):195-206	異常プリオン蛋白質をIn vitroで生成することができ、プリオン伝播が蛋白質のみにより起こる仮説を支持する強力な証拠と考えられる研究。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Ministry of Health/Welfare and Sport/Press release, 22/04/2005	オランダで最初のvCJD患者について。
2005/6/13	50229	株式会社ベネシス	ナサルプラーゼ(細胞培養)	ナサルプラーゼ(細胞培養)	人腎細胞	日本	有効成分	有	無	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	BBC News 2004年11月10日	アイルランド共和国において、英国滞在歴のないvCJD患者が初めて確認された。この患者は輸血を受けたことはないし、供血したこともない。アイルランド共和国では以前にvCJDと診断された症例があるが、この患者はある時期英国に滞在していた。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Scienceexpress report 2004年11月11日	BSE由来プリオンでのヒトへの1次及び2次感染は、プリオンソース及びレシピエントの遺伝型の如何により、孤発性CJD様表現型もしくはvCJDに加えてさらに新規の表現型をもたらす可能性があり、また、ヒトプリオン病の患者全てをPrPScのタイプに分類したサーベランスを行なうことによって、BSE曝露パターンやvCJDプリオンの病原性ソースに関連した新規のPrPScタイプや特定のPrPScサブタイプの相対的頻度の変化を早期に発見できるであろうとする報告である。
											サルパルポウイルス	J of Infectious Diseases 2004;190(11)1900-7	サルのパルポウイルス病が潜在的な人畜共通の伝染病と認識することに関する研究。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Neuroscience 2004; 24(50):11280-90	ウシ海綿状脳症(BSE)の代用マーカーとして用いられているスクレイパー・プリオン(PrPSc)がin vitroにおいてフェリチンと結合し、これがヒト腸上皮細胞バリア突破機序に関連することを示した研究。
											A型肝炎	AABB Weekly Report 2004;10(44) 3	米国血液銀行協会(AABB)は会員に対し、共通の感染源に由来するA型肝炎ウイルス(HAV)の流行に曝露された可能性のある供血者の取扱いについて、HAVに最後に曝露された可能性がある日から120日間供血停止することを勧告する。また、供血者がHAVに曝露されている可能性がある場合には当該製品の回収の勧告について審議する。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											鳥インフルエンザウイルス	RIVM rapport 630940003. Bilthoven: RIVM	2003年、オランダのH7N7鳥インフルエンザアウトブレイクコントロール期間内のリスクファクター、健康、福祉、ヘルスケアニーズと予防措置に関する調査結果。調査対象となった養鶏場従業員関係者の約千人が鳥インフルエンザに感染していた。調査結果の主な内容:①抗ウイルス薬のオセルタミビルは感染防御効果が見られたが、マスクやゴーグルでは見られなかった。②発症した453人の主要症状は結膜炎で、そのうち89人から鳥インフルエンザウイルスが検出され、そのうち3人は家禽との接触はなく、感染した人との接触のみであった。③感染した家禽業者と接触した家族の59%で抗体が検出された。④流行中感染した家禽と接触した500人のうち約50%に抗体が検出された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Sciencexpress report 2005;307:1107-10	腎臓、脾臓又肝臓に5つの炎症を有するマウスにプリオンを投与したところこれらの臓器にプリオンの集積が認められたが、リンフォトキシン- α 又はその受容体を欠いたマウスの炎症臓器にはプリオンは集積しなかった。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
											デング熱	Nephrology Dialysis Transplantation 2005; 20(2)447-8	デング熱の既往のあるドナーから、生体腎移植を受けたレシピエントが、腎移植後5日目に発熱を初発症状とする劇症のデング熱を発現したとの報告。
											HIV	The New York City Department of Health and Mental Hygiene Press Release 11 Feb 2005	抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行した症例が発見された。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(7):686-91	H5N1インフルエンザの臨床スペクトルに属する疾患について、これまで考えられていた範囲よりも、より広い範囲にわたるものであることが示唆された事例。
											ニパウイルス	Health and Science Bulletin,2(2),2004	2004年2月19日~4月16日にバングラデシュ Faridpur地区の住民36人がニパウイルスに感染し、27人が死亡した。患者23人の血清中にニパウイルスのIgM抗体が確認され、患者数名の喉拭き取りサンプルからニパウイルスRNAが検出された。濃厚接触のあったこれらの患者の家族間などに飛沫感染によると思われるヒトからヒトへのニパウイルス感染拡大が見られた。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											ハンタウイルス	Microbiology and Immunology 2004;48 (11):843	2000年～2003年の日本各地におけるげっ歯類のハンタウイルス感染についての疫学調査結果。
											HTLV	The New York Times, February 26, 2005	アメリカの科学者は2005年2月25日、AIDSを起すウイルスと同じレトロウイルスに属する2つの新しいヒトのウイルスを発見したと述べた。これらウイルスは、サル及び他の霊長動物を狩猟するカメルーンの地方の人々に見出され、狩猟、食肉化、ペットとして飼ったときに咬まれたり引っ掻かれたりして、血液を介して伝播した可能性がある。第12回Annual Retrovirus Conferenceにおいて公表された。これらのレトロウイルスをHTLV-3及びHTLV-4と名づけたが、従来のHIVやHTLVと似ているのかまだ判っておらず、ヒトにどの程度伝播するのかカメルーンのヒト4000人について更に検査する計画である。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	PNAS,102(9),3501/2005	CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるために、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白質(rPrPsc)もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白質(sPrPsc)も両方の異常プリオン蛋白質(PrPsc)を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。大多数のイムノアッセイ法では、孤発性CJD(sCJD)患者の脳の灰白質及び白質の両方で全PrPscの90%あまりを占めるsPrPscが正常プリオン蛋白質(PrPc)を除去するためのプロテアーゼ処理中に消化されてしまうことにより、PrPsc量を過小評価することになることが明らかとなった。孤発性CJD患者8人から18の脳部位が組織学法、免疫組織化学法(IHC)、CDI法で検索したところ、それぞれ3部位(17%)、4部位(22%)、18部位(100%)が陽性であり、CDIはより高感度であるため、IHCが免疫診断技法の中でスタンダードとして使用されるべきでない。扁桃や虫垂がIHCによってのみ評価されているため、検出しそこなっている可能性がある。多数のプリオンサンプルをCDIで検査することによって、プリオン病の疫学が変わるかもしれない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											マールブルグ病	WHO/CSR 2005年3月23日	アンゴラにおけるウイルス性出血性熱の流行の病原体は、マールブルグウイルスであることが確認された。3月21日に死亡した12症例のうち9例からこのウイルスが検出された。2004年10月以降現在まで102名が感染し、95名が死亡している。これまでにマールブルグウイルス感染症例は、1967年にウガンダから輸入した感染サルに接触したドイツ及びユーゴスラビアの検査技師31人(7人死亡)、1975年にジンバブエで3人(1人死亡)、1980年にケニアで2人(1人死亡)、1987年にケニアで1人(1人死亡)、1998年～2000年にコンゴで149人(123人死亡)が報告されている。このウイルス感染症の発生は大変まれでアフリカ大陸南部の国に限定されるように思われる。ヒト-ヒト感染が可能で、患者のケア中にしばしば起きる。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	International Journal of Epidemiology 2005;34:46-52	フランスはvCJD症例数が世界で2番目に高い国であり、英国から輸入した牛肉(英国の牛肉総輸出量の60%がフランスに輸出)によるBSEの曝露がその主な原因と考えられる。フランスにおける将来のvCJD発症数を、感染性のある牛肉製品の接種量や1980～1995年に英国に滞在した期間などのシミュレーションから予測した。シミュレーション結果から将来のvCJD発症数は33症例と予測された。英国での滞在期間はvCJD発症数に影響を及ぼさなかった。
											マラリア	Vox Sanguinis 2005 ;88(3):200-1	現在のドナー選択ガイドライン基準を満たし、また8年間以上英国を出国していないガーナからの供血者による輸血マラリア感染
											ウエストナイルウイルス	GBER Guidance for Industry April 2005	本ガイダンス案は、FDAが先に発行した2003年5月付のWNV感染した血液ドナーに関するガイダンスの改訂案である。今回は「発熱を伴った頭痛」を有するドナーは供血禁止とされず、また、再登録には個別NATで陰性の確認が必要などの変更点があげられている。
											ウイルス感染	Transfusion 2005;45(4): 500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Cell 2005;121(2):195-206	異常プリオン蛋白質をIn vitroで生成することができ、プリオン伝播が蛋白質のみにより起こる仮説を支持する強力な証拠と考えられる研究。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Ministry of Health/Welfare and Sport/Press release, 22/04/2005	オランダで最初のvCJD患者について。
2005/6/13	50230	株式会社ベネシス	ナサルブラーゼ(細胞培養) ウロキナーゼ注射剤	人血清アルブミン	人血液	米国	添加物 添加物・ 製造 工程	有	無	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	BBC News 2004年11月10日	アイルランド共和国において、英国滞在歴のないvCJD患者が初めて確認された。この患者は輸血を受けたことはないし、供血したこともない。アイルランド共和国では以前にvCJDと診断された症例があるが、この患者はある時期英国に滞在していた。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Scienceexpress report 2004年11月11日	BSE由来プリオンでのヒトへの1次及び2次感染は、プリオンソース及びレシピエントの遺伝型の如何により、孤発性CJD様表現型もしくはvCJDに加えてさらに新規の表現型をもたらす可能性があり、また、ヒトプリオン病の患者全てをPrPScのタイプに分類したサーベランスを行なうことよって、BSE曝露パターンやvCJDプリオンの病原性ソースに関連した新規のPrPScタイプや特定のPrPScサブタイプの相対的頻度の変化を早期に発見できるであろうとする報告である。
											サルパルポウイルス	J of Infectious Diseases 2004;190(11)1900-7	サルのパルポウイルス病が潜在的な人畜共通の伝染病と認識することに関する研究。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Neuroscience 2004; 24(50):11280-90	ウシ海綿状脳症(BSE)の代用マーカーとして用いられているスクレイパー・プリオン(PrPSc)がin vitroにおいてフェリチンと結合し、これがヒト腸上皮細胞バリア突破機序に関連することを示した研究。
											A型肝炎	AABB Weekly Report 2004;10(44) 3	米国血液銀行協会(AABB)は会員に対し、共通の感染源に由来するA型肝炎ウイルス(HAV)の流行に曝露された可能性のある供血者の取扱いについて、HAVに最後に曝露された可能性がある日から120日間供血停止することを勧告する。また、供血者がHAVに曝露されている可能性がある場合には当該製品の回収の勧告について審議する。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											鳥インフルエンザウイルス	RIVM rapport 630940003. Bilthoven: RIVM	2003年、オランダのH7N7鳥インフルエンザアウトブレイクコントロール期間内のリスクファクター、健康、福祉、ヘルスケアニーズと予防措置に関する調査結果。調査対象となった養鶏場従業員関係者の約千人が鳥インフルエンザに感染していた。調査結果の主な内容:①抗ウイルス薬のオセルタミビルは感染防御効果が見られたが、マスクやゴーグルでは見られなかった。②発症した453人の主要症状は結膜炎で、そのうち89人から鳥インフルエンザウイルスが検出され、そのうち3人は家禽との接触はなく、感染した人との接触のみであった。③感染した家禽業者と接触した家族の59%で抗体が検出された。④流行中感染した家禽と接触した500人のうち約50%に抗体が検出された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Sciencexpress report 2005;307:1107-10	腎臓、脾臓又肝臓に5つの炎症を有するマウスにプリオンを投与したところこれらの臓器にプリオンの集積が認められたが、リンフォトキシン- α 又はその受容体を欠いたマウスの炎症臓器にはプリオンは集積しなかった。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
											デング熱	Nephrology Dialysis Transplantation 2005; 20(2)447-8	デング熱の既往のあるドナーから、生体腎移植を受けたレシピエントが、腎移植後5日目に発熱を初発症状とする劇症のデング熱を発現したとの報告。
											HIV	The New York City Department of Health and Mental Hygiene Press Release 11 Feb 2005	抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行した症例が発見された。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(7):686-91	H5N1インフルエンザの臨床スペクトルに属する疾患について、これまで考えられていた範囲よりも、より広い範囲にわたるものであることが示唆された事例。
											ニパウイルス	Health and Science Bulletin,2(2),2004	2004年2月19日~4月16日にバングラデシュ Faridpur地区の住民36人がニパウイルスに感染し、27人が死亡した。患者23人の血清中にニパウイルスのIgM抗体が確認され、患者数名の喉拭き取りサンプルからニパウイルスRNAが検出された。濃厚接触のあったこれらの患者の家族間などに飛沫感染によると思われるヒトからヒトへのニパウイルス感染拡大が見られた。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											ハンタウイルス	Microbiology and Immunology 2004;48 (11):843	2000年～2003年の日本各地におけるげっ歯類のハンタウイルス感染についての疫学調査結果。
											HTLV	The New York Times, February 26, 2005	アメリカの科学者は2005年2月25日、AIDSを起すウイルスと同じレトロウイルスに属する2つの新しいヒトのウイルスを発見したと述べた。これらウイルスは、サル及び他の霊長動物を狩猟するカメルーンの地方の人々に見出され、狩猟、食肉化、ペットとして飼ったときに咬まれたり引っ掻かれたりして、血液を介して伝播した可能性がある。第12回Annual Retrovirus Conferenceにおいて公表された。これらのレトロウイルスをHTLV-3及びHTLV-4と名づけたが、従来のHIVやHTLVと似ているのかまだ判っておらず、ヒトにどの程度伝播するのかカメルーンのヒト4000人について更に検査する計画である。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	PNAS,102(9),3501/2005	CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるために、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白質(rPrPsc)もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白質(sPrPsc)も両方の異常プリオン蛋白質(PrPsc)を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。大多数のイムノアッセイ法では、孤発性CJD(sCJD)患者の脳の灰白質及び白質の両方で全PrPscの90%あまりを占めるsPrPscが正常プリオン蛋白質(PrPc)を除去するためのプロテアーゼ処理中に消化されてしまうことにより、PrPsc量を過小評価することになることが明らかとなった。孤発性CJD患者8人から18の脳部位が組織学法、免疫組織化学法(IHC)、CDI法で検索したところ、それぞれ3部位(17%)、4部位(22%)、18部位(100%)が陽性であり、CDIはより高感度であるため、IHCが免疫診断技法の中でスタンダードとして使用されるべきでない。扁桃や虫垂がIHCによってのみ評価されているため、検出しそこなっている可能性がある。多数のプリオンサンプルをCDIで検査することによって、プリオン病の疫学が変わるかもしれない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											マールブルグ病	WHO/CSR 2005年3月23日	アンゴラにおけるウイルス性出血性熱の流行の病原体は、マールブルグウイルスであることが確認された。3月21日に死亡した12症例のうち9例からこのウイルスが検出された。2004年10月以降現在まで102名が感染し、95名が死亡している。これまでにマールブルグウイルス感染症例は、1967年にウガンダから輸入した感染サルに接触したドイツ及びユーゴスラビアの検査技師31人(7人死亡)、1975年にジンバブエで3人(1人死亡)、1980年にケニアで2人(1人死亡)、1987年にケニアで1人(1人死亡)、1998年～2000年にコンゴで149人(123人死亡)が報告されている。このウイルス感染症の発生は大変まれでアフリカ大陸南部の国に限定されるように思われる。ヒト-ヒト感染が可能で、患者のケア中にしばしば起きる。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	International Journal of Epidemiology 2005;34:46-52	フランスはvCJD症例数が世界で2番目に高い国であり、英国から輸入した牛肉(英国の牛肉総輸出量の60%がフランスに輸出)によるBSEの曝露がその主な原因と考えられる。フランスにおける将来のvCJD発症数を、感染性のある牛肉製品の接種量や1980～1995年に英国に滞在した期間などのシミュレーションから予測した。シミュレーション結果から将来のvCJD発症数は33症例と予測された。英国での滞在期間はvCJD発症数に影響を及ぼさなかった。
											マラリア	Vox Sanguinis 2005 ;88(3):200-1	現在のドナー選択ガイドライン基準を満たし、また8年間以上英国を出国していないガーナからの供血者による輸血マラリア感染
											ウエストナイルウイルス	CBER Guidance for Industry April 2005	本ガイダンス案は、FDAが先に発行した2003年5月付のWNV感染した血液ドナーに関するガイダンスの改訂案である。今回は「発熱を伴った頭痛」を有するドナーは供血禁止とされず、また、再登録には個別NATで陰性の確認が必要などの変更点があげられている。
											ウイルス感染	Transfusion 2005;45(4): 500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Cell 2005;121(2):195-206	異常プリオン蛋白質をIn vitroで生成することができ、プリオン伝播が蛋白質のみにより起こる仮説を支持する強力な証拠と考えられる研究。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Ministry of Health/Welfare and Sport/Press release, 22/04/2005	オランダで最初のvCJD患者について。
2005/6/15	50231	ワイズ株式会社	ポリフィマーナトリウム	ポリフィマーナトリウム	ブタ血液	オランダ	有効成分	有	無	無	E型肝炎	厚生労働省食安監発第1129001号	ブタ肝臓を摂食した6名が、E型肝炎ウイルスに感染し、うち1名が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。
											E型肝炎	IDWR感染症週報2004年第47週	E型肝炎の感染経路、症状、規制、発生動向、直近の累積報告数、感染源などについて。
											サルモネラ	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2225-7	異型の鼠チフス菌について、非経口の動物-動物間及び動物-ヒト間の接触感染が示唆された。
											ニパウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2228-30	1998年のマレーシアで集団発生したブタからこれまで報告されていなかった株を含むニパウイルスが分離され分子解析された。
2005/6/17	50232	日本赤十字社	人赤血球濃厚液	人赤血球濃厚液	人血液	日本	有効成分	有	有	無	HIV	Eurosurveillance Weekly 2005;10(8)	抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行した症例が発見された
											HIV	IASR(共同通信2004年12月3日)	在日外国人のHIV-2型感染が確認された。
											エルシニア感染	ICUとCCU2005;9(2):45-9	輸血によりエルシニア感染し死亡した症例。厚生労働省へは報告済み。
											マラリア	ABC newsletter 2004年12月3日	米国疾病管理予防センターは、ドミニカ共和国のアルタグラシア州およびデュアルテ州を訪れた旅行者2名のマラリア感染報告を受け、旅行者に対する予防措置の勧告内容を拡大する。
											マラリア	CDC 2005年1月12日	国疾病対策予防センター(CDC)は、2004年12月26日に発生した大地震および津波の被災地域に居住する米国人に現在の健康上、安全上のリスクに関する情報を通知し、これらのリスクを最小限とするために講じる措置についてのガイダンスを提供する。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											マラリア	ProMed20050325-0070(Daily Times 3月24日)	パキスタンのカラチ市でマラリア感染が広がっている。
											マラリア	Vox Sanguinis 2005 ;88(3):200-1	現在のドナー選択ガイドライン基準を満たし、また8年間以上英国を出国していないガーナからの供血者による輸血マラリア感染
											トリパノソーマ症	ProMed2050402-0020(O Folha online)	ブラジルでサトウキビジュース摂取が原因とみられるトリパノソーマ集団感染発生した。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Neuroscience 2004; 24(50):11280-90	ウシ海綿状脳症(BSE)の代用マーカーとして用いられているスクレイビー・プリオン(PrP ^{Sc})がin vitroにおいてフェリチンと結合し、これがヒト腸上皮細胞バリア突破機序に関連することを示した研究。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Neurology 2005 ;64(5):905-7	R208H変異がPrP ^{Sc} の特性や疾患の表現型には大きな変化を与えずに疾患感受性に影響を及ぼす。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Proceedings of National academy Science 2005;102(9):3501-6	クロイツフェルト・ヤコブ病の診断には構造依存性免疫試験(CDI)を行うより正確に行える。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Clinical Microbiol 2005;43(3):1118-1126	レクチン(RCA)結合性を比較することでsCJDとvCJDのプリオンタンパク質が識別できる可能性がある。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Irish Blood Transfusion Service 2004年10月31日	アイルランド輸血サービスはvCJD伝播リスク低減のため、英国潜在歴や手術歴等に新たな供血制限を発表した。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20041124-0040(AFP記事11月23日)	フランスで9例目となるvCJD患者の頻回献血が報告された。該当血液は既に使用されている種、受血者の追跡調査を発表した。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2004;306 (5702):1793-6	129位のアミノ酸がバリンであるヒトプリオン蛋白質は変異型クロイツフェルトヤコブ病(vCJD)の発現を阻止する。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2004年12月17日	オランダは血液を介したvCJD伝播への懸念から2004年12月9日、供血者に関する新たな禁止措置を実施することを発表した。
											BSE	ProMed20050129-0060(BBC News 1月28日)	フランスのヤギが狂牛病検査の結果、陽性であることが判明した。これは、ウシ以外の食用動物が牛海綿体脳症(BSE)に感染した初めての事例である。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											BSE	ProMed20050204-0030(EU press Rereases 2 Feb 2005)	フランスのヤギが狂牛病検査の結果、陽性であることが判明したことから、欧州委員会は、ヤギの検査数を4倍に増やす計画である
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050205-0040 (共同ニュース 2月4日)	本邦において初の変異型ヤコブ病(vCJD)患者が確認された。
											BSE	ABC newsletter 2005年2月11日	スコットランドにおいて、BSEに感染したヤギが1990年には存在していた。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Yahoo health 2005年3月3日	モロッコで初めてvCJDの疑いのある患者が死亡した。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005 ;365(9461):781-3	BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジェネートの経口摂取により神経症状を発症したが、もう1頭は無症状であった。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Genelal Virology 2005;86:1571-9	TSEの感染因子を運ぶ血液成分を特定することを目的にヒツジの血液細胞成分におけるPrPcの分布を検討した。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 2005;45(4):504-13	非常に高感度なDELFLIA及びフローサイトメーターを用いてvCJD患者の血液中のPrP発現について。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosuveillance;10(16)2005年4月21日	オランダで初めてのvCJDの可能性のある症例が報告された。
											鳥インフルエンザウイルス	WHO/CSR.Influenza 2005年12月30日	高病原性鳥インフルエンザによる感染がベトナムで拡大している。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):686-91	呼吸器症状を示さず、脳炎と消化器症状を呈する高病原性トリインフルエンザA(H5N1型)の症例が報告された。
											ウイルス感染	ProMed20050406-0080(MASTA Health Report 4月4日)	コモロ諸島で4ヶ月続いていた感染症の原因がチクングンヤウイルスであると判明した。
											ニパウイルス	ProMed20041123-0030(The IndependentBangladesh) Indendependent,Bangladesh、11月21日	ニパウイルス感染患者からのヒト-ヒト感染が疑われる死亡症例が報告された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											マールブルグ病	ProMed20050323-0100(Reuters Alertnet Foundation)	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。
											マールブルグ病	CDC 2005年4月20日	CDCが発表したマールブルグ病に関する渡航者向けのガイダンス。
											ウエストナイルウイルス	ABC newsletter 2004年11月5日	FDAはWNVに対する供血延期期間を28日から56日に拡大することを勧告した。
											ウエストナイルウイルス	ProMed20050125-0070(ウイルス学生物工学研究センターDr. Valery B.Loktev 1月24日)	ウエストナイルウイルス(WNV)が現在ロシア極東地域で循環していることが確認された
											A型肝炎	AABB ASSOCIATION BULLETIN#04-08	米国血液銀行協会(aaBB)は、血液採取施設に対してA型肝炎ウイルス(HAV)流行時に地方自治体の保険当局が行う具体的な措置に従って供血延期措置を実施するよう勧告した。
											B型肝炎	American Society of Hepatology46th Annual Meeting2259	B型肝炎の既往症を有する14名(HBs抗体陽性)の患者に対して実施された同種造血幹細胞移植では、HBVが再活性化しているリバセロコンバージョンとなる可能性が示された。
											B型肝炎C型肝炎	Vox Sanguinis 2005;88(1):10-6	日本の献血者においてNATにより検出されたハイリスクドナーはHBV,HCV双方とも主に若年者で、入院患者とは異なるgenotypeの分布を有する。HBVの稀なgenotypeHが日本で始めて発見された。本調査結果は若年層にHBV,HCVが広がっていることを反映しているとの報告である。
											B型肝炎	J of General Virology 2005; 86: 595-9	本邦の献血者において、遺伝子型がHのHBV事例が初めて発見され、現行のNATスクリーニングで検出された。
											B型肝炎	Eurosuveillance ;10(11)2005年3月17日	ベルギーとアメリカの老人ホームで採血器具の不適切な使用によりHBV感染が集団発生した。
											C型肝炎	Hepatology 2005;41(1):115-22	HCVの感染は肝疾患病棟、特に長期間の入院を要する患者において、患者から患者のルートで発生しているようである

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005; 75(3): 399-401	英国において、麻酔の手順上、感染のおそれがない状況下で麻酔科医から患者にHCVが伝播した最初の報告である。このことから、輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートについて考慮する必要がある
											E型肝炎	ProMed20041129-0060(Daily Yomiuri 11月28日)	ブタ肝臓を摂取した6名が、E型肝炎ウイルスに感染し、うち1名が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。
											E型肝炎	肝臓2004; 45 (Suppl3)日本肝臓学会東部会講演要旨No117	ブタ肝臓を接種した6名が、E型肝炎ウイルスに感染し、うち1名が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。
											HTLV	J of Infectious Diseases 2005 ;191(9):1490-7	ヒトTリンパ球向性ウイルス(HTLV) - I とHTLV - II の性感染発生率を10年間に渡り追跡調査した結果。
2005/6/17	50233	日本赤十字社	人全血液	人全血液	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	Eurosurveillance Weekly 2005;10(8)	抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行した症例が発見された
											HIV	IASR(共同通信2004年12月3日)	在日外国人のHIV-2型感染が確認された。
											エルシニア感染	ICUとCCU2005;9(2):45-9	輸血によりエルシニア感染し死亡した症例。厚生労働省へは報告済み。
											マラリア	ABC newsletter 2004年12月3日	米国疾病管理予防センターは、ドミニカ共和国のアルタグラシア州およびデュアルテ州を訪れた旅行者2名のマラリア感染報告を受け、旅行者に対する予防措置の勧告内容を拡大する。
											マラリア	CDC 2005年1月12日	国疾病対策予防センター(CDC)は、2004年12月26日に発生した大地震および津波の被災地域に居住する米国人に現在の健康上、安全上のリスクに関する情報を通知し、これらのリスクを最小限とするために講じる措置についてのガイダンスを提供する。
											マラリア	ProMed20050325-0070(Daily Times 3月24日)	パキスタンのカラチ市でマラリア感染が広がっている。
											マラリア	Vox Sanguinis 2005 ;88(3):200-1	現在のドナー選択ガイドライン基準を満たし、また8年間以上英国を出国していないガーナからの供血者による輸血マラリア感染

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											トリパノソーマ症	ProMed2050402-0020(O Folha online)	ブラジルでサトウキビジュース摂取が原因とみられるトリパノソーマ集団感染発生した。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Neuroscience 2004; 24(50):11280-90	ウシ海綿状脳症(BSE)の代用マーカーとして用いられているスクレイビー・プリオン(PrP ^{Sc})がin vitroにおいてフェリチンと結合し、これがヒト腸上皮細胞バリア突破機序に関連することを示した研究。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Neurology 2005 ;64(5):905-7	R208H変異がPrP ^{Sc} の特性や疾患の表現型には大きな変化を与えずに疾患感受性に影響を及ぼす。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Proceedings of National academy Science 2005;102(9):3501-6	クロイツフェルト・ヤコブ病の診断には構造依存性免疫試験(CDI)を行うより正確に行える。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Clinical Microbiol 2005;43(3):1118-1126	レクチン(RCA)結合性を比較することでsCJDとvCJDのプリオンタンパク質が識別できる可能性がある。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Irish Blood Transfusion Service 2004年10月31日	アイルランド輸血サービスはvCJD伝播リスク低減のため、英国潜在歴や手術歴等に新たな供血制限を発表した。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20041124-0040(AFP記事11月23日)	フランスで9例目となるvCJD患者の類回献血が報告された。該当血液は既に使用されている種、受血者の追跡調査を発表した。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2004;306 (5702):1793-6	129位のアミノ酸がバリンであるヒトプリオン蛋白質は変異型クロイツフェルトヤコブ病(vCJD)の発現を阻止する。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2004年12月17日	オランダは血液を介したvCJD伝播への懸念から2004年12月9日、供血者に関する新たな禁止措置を実施することを発表した。
											BSE	ProMed20050129-0060(BBC News 1月28日)	フランスのヤギが狂牛病検査の結果、陽性であることが判明した。これは、ウシ以外の食用動物が牛海綿状脳症(BSE)に感染した初めての事例である。
											BSE	ProMed20050204-0030(EU press Rereases 2 Feb 2005)	フランスのヤギが狂牛病検査の結果、陽性であることが判明したことから、欧州委員会は、ヤギの検査数を4倍に増やす計画である
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050205-0040(共同ニュース 2月4日)	本邦において初の変異型ヤコブ病(vCJD)患者が確認された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											BSE	ABC newsletter 2005年2月11日	スコットランドにおいて、BSEに感染したヤギが1990年には存在していた。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Yahoo health 2005年3月3日	モロッコで初めてvCJDの疑いのある患者が死亡した。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9461):781-3	BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジェネートの経口摂取により神経症状を発症したが、もう1頭は無症状であった。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Genetal Virology 2005;86:1571-9	TSEの感染因子を運ぶ血液成分を特定することを目的にヒツジの血液細胞成分におけるPrPcの分布を検討した。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 2005;45(4):504-13	非常に高感度なDELFLIA及びフローサイトメトリーを用いてvCJD患者の血液中のPrP発現について。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance;10(16)2005年4月21日	オランダで初めてのvCJDの可能性のある症例が報告された。
											鳥インフルエンザウイルス	WHO/CSR,Influenza 2005年12月30日	高病原性鳥インフルエンザによる感染がベトナムで拡大している。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):686-91	呼吸器症状を示さず、脳炎と消化器症状を呈する高病原性トリインフルエンザA(H5N1型)の症例が報告された。
											ウイルス感染	ProMed20050406-0080(MASTA Health Report 4月4日)	コモロ諸島で4ヶ月続いていた感染症の原因がチクングンヤウイルスであると判明した。
											ニパウイルス	ProMed20041123-0030(The Independent Bangladesh) Indendependent, Bangladesh, 11月21日	ニパウイルス感染患者からのヒト-ヒト感染が疑われる死亡症例が報告された。
											マールブルグ病	ProMed20050323-0100(Reuters Alertnet Foundation)	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。
											マールブルグ病	CDC 2005年4月20日	CDCが発表したマールブルグ病に関する渡航者向けのガイダンス。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											ウエストナイルウイルス	ABC newsletter 2004年11月5日	FDAはWNVに対する供血延期期間を28日から56日に拡大することを勧告した。
											ウエストナイルウイルス	ProMed20050125-0070(ウイルス学学生物工学研究センターDr. Valery B.Loktev 1月24日)	ウエストナイルウイルス(WNV)が現在ロシア極東地域で循環していることが確認された
											A型肝炎	AABB ASSOCIATION BULLETIN#04-08	米国血液銀行協会(aaBB)は、血液採取施設に対してA型肝炎ウイルス(HAV)流行時に地方自治体の保険当局が行う具体的な措置に従って供血延期措置を実施するよう勧告した。
											B型肝炎	American Society of Hepatology46th Annual Meeting2259	B型肝炎の既往症を有する14名(HBs抗体陽性)の患者に対して実施された同種造血幹細胞移植では、HBVが再活性化しているリバセロコンバージョンとなる可能性が示された。
											B型肝炎C型肝炎	Vox Sanguinis 2005; 88(1):10-6	日本の献血者においてNATにより検出されたハイリスクドナーはHBV,HCV双方とも主に若年者で、入院患者とは異なるgenotypeの分布を有する。HBVの稀なgenotypeHが日本で始めて発見された。本調査結果は若年層にHBV,HCVが広がっていることを反映しているとの報告である。
											B型肝炎	J of General Virology 2005; 86: 595-9	本邦の献血者において、遺伝子型がHのHBV事例が初めて発見され、現行のNATスクリーニングで検出された。
											B型肝炎	Eurosurveillance ;10(11)2005年3月17日	ベルギーとアメリカの老人ホームで採血器具の不適切な使用によりHBV感染が集団発生した。
											C型肝炎	Hepatology 2005;41(1):115-22	HCVの感染は肝疾患病棟、特に長期間の入院を要する患者において、患者から患者のルートで発生しているようである
											C型肝炎	J of Medical Virology 2005; 75(3): 399-401	英国において、麻酔の手順上、感染のおそれがない状況下で麻酔科医から患者にHCVが伝播した最初の報告である。このことから、輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートについて考慮する必要がある
											E型肝炎	ProMed20041129-0060(Daily Yomiuri 11月28日)	ブタ肝臓を摂取した6名が、E型肝炎ウイルスに感染し、うち1名が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											E型肝炎	肝臓2004;45(Suppl3)日本肝臓学会東部会講演要旨No117	ブタ肝臓を接種した6名が、E型肝炎ウイルスに感染し、うち1名が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。
											HTLV	J of Infectious Diseases 2005 ;191(9):1490-7	ヒトリンパ球向性ウイルス(HTLV) - I とHTLV - II の性感染発生率を10年間に渡り追跡調査した結果。
2005/6/7	50234	日本赤十字社	抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs人免疫グロブリン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	Eurosurveillance Weekly 2005;10(8)	抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行した症例が発見された
											HIV	IASR(共同通信2004年12月3日)	在日外国人のHIV-2型感染が確認された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Neuroscience 2004;24(50):11280-90	ウシ海綿状脳症(BSE)の代用マーカーとして用いられているスクレイパー・プリオン(PrPSc)がin vitroにおいてフェリチンと結合し、これがヒト腸上皮細胞バリア突破機序に関連することを示した研究。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Neurology 2005 ;64(5):905-7	R208H変異がPrPScの特性や疾患の表現型には大きな変化を与えずに疾患感受性に影響を及ぼす。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Proceedings of National academy Science 2005;102(9):3501-6	クロイツフェルト・ヤコブ病の診断には構造依存性免疫試験(CDI)を行うより正確に行える。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Clinical Microbiol 2005;43(3):1118-1126	レクチン(RCA)結合性を比較することでsCJDとvCJDのプリオンタンパク質が識別できる可能性がある。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Irish Blood Transfusion Service 2004年10月31日	アイルランド輸血サービスはvCJD伝播リスク低減のため、英国潜在歴や手術歴等に新たな供血制限を発表した。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20041124-0040(AFP記事11月23日)	フランスで9例目となるvCJD患者の頻回献血が報告された。該当血液は既に使用されている種、受血者の追跡調査を発表した。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2004;306(5702):1793-6	129位のアミノ酸がバリンであるヒトプリオン蛋白質は変異型クロイツフェルトヤコブ病(vCJD)の発現を阻止する。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC newsletter 2004年12月17日	オランダは血液を介したvCJD伝播への懸念から2004年12月9日、供血者に関する新たな禁止措置を実施することを発表した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											BSE	ProMed20050129-0060(BBC News 1月28日)	フランスのヤギが狂牛病検査の結果、陽性であることが判明した。これは、ウシ以外の食用動物が牛海綿体脳症(BSE)に感染した初めての事例である。
											BSE	ProMed20050204-0030(EU press Rereases 2 Feb 2005)	フランスのヤギが狂牛病検査の結果、陽性であることが判明したことから、欧州委員会は、ヤギの検査数を4倍に増やす計画である
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed20050205-0040(共同ニュース 2月4日)	本邦において初の変異型ヤコブ病(vCJD)患者が確認された。
											BSE	ABC newsletter 2005年2月11日	スコットランドにおいて、BSEに感染したヤギが1990年には存在していた。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Yahoo health 2005年3月3日	モロッコで初めてvCJDの疑いのある患者が死亡した。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005;365(9461):781-3	BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジェネートの経口摂取により神経症状を発症したが、もう1頭は無症状であった。
											鳥インフルエンザウイルス	WHO/CSR,Influenza 2005年12月30日	高病原性鳥インフルエンザによる感染がベトナムで拡大している。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):686-91	呼吸器症状を示さず、脳炎と消化器症状を呈する高病原性トリインフルエンザA(H5N1型)の症例が報告された。
											ウイルス感染	ProMed20050406-0080(MASTA Health Report 4月4日)	コモロ諸島で4ヶ月続いていた感染症の原因がチクングンヤウイルスであると判明した。
											ニパウイルス	ProMed20041123-0030(The IndependentBangladesh) Indendependent,Bangladesh、11月21日	ニパウイルス感染患者からのヒト-ヒト感染が疑われる死亡症例が報告された。
											マールブルグ病	ProMed20050323-0100(Reuters Alertnet Foundation)	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											マールブルグ病	CDC 2005年4月20日	CDCが発表したマールブルグ病に関する渡航者向けのガイダンス。
											ウエストナイルウイルス	ABC newsletter 2004年11月5日	FDAはWNVに対する供血延期期間を28日から56日に拡大することを勧告した。
											ウエストナイルウイルス	ProMed20050125-0070(ウイルス学生物工学研究センターDr. Valery B.Loktev 1月24日)	ウエストナイルウイルス(WNV)が現在ロシア極東地域で循環していることが確認された
											A型肝炎	AABB ASSOCIATION BULLETIN#04-08	米国血液銀行協会(aaBB)は、血液採取施設に対してA型肝炎ウイルス(HAV)流行時に地方自治体の保険当局が行う具体的な措置に従って供血延期措置を実施するよう勧告した。
											B型肝炎	ABC newsletter 2004年10月22日	FDA血液製剤問委員会は、HBc抗体陽性者に新たな検査方法を加え供血者のエントリーを可能とするよう勧告した。
											B型肝炎	American Society of Hepatology46th Annual Meeting2259	B型肝炎の既往症を有する14名(HBs抗体陽性)の患者に対して実施された同種造血幹細胞移植では、HBVが再活性化しているリパセロコンバージョンとなる可能性が示された。
											B型肝炎C型肝炎	Vox Sanguinis 2005; 88(1):10-6	日本の献血者においてNATにより検出されたハイリスクドナーはHBV,HCV双方とも主に若年者で、入院患者とは異なるgenotypeの分布を有する。HBVの稀なgenotypeHが日本で始めて発見された。本調査結果は若年層にHBV,HCVが広がっていることを反映しているとの報告である。
											B型肝炎	J of General Virology 2005; 86: 595-9	本邦の献血者において、遺伝子型がHのHBV事例が初めて発見され、現行のNATスクリーニングで検出された。
											B型肝炎	Eurosurveillance ;10(11)2005年3月17日	ベルギーとアメリカの老人ホームで採血器具の不適切な使用によりHBV感染が集団発生した。
											E型肝炎	ProMed20041129-0060(Daily Yomiuri 11月28日)	ブタ肝臓を摂取した6名が、E型肝炎ウイルスに感染し、うち1名が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。
											E型肝炎	肝臓2004; 45(Suppl3)日本肝臓学会東部会講演要旨No117	ブタ肝臓を接種した6名が、E型肝炎ウイルスに感染し、うち1名が劇症肝炎で死亡したと2004年11月27日に公表された。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/6/20	50235	協和醗酵工業株式会社	アルテブラーゼ(遺伝子組換え)	ウシ胎仔血清	ウシの血液	米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
2005/6/20	50236	協和醗酵工業株式会社	アルテブラーゼ(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巣細胞	チャイニーズハムスター卵巣	米国	製造工程	無	無	無			
2005/6/20	50237	日本臓器製薬株式会社	フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子	人フィブリノゲン	ヒト血液	米国	有効成分	無	無	無			
2005/6/20	50238	日本臓器製薬株式会社	フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子	血液凝固第ⅩⅢ因子	ヒト血液	米国	有効成分	無	無	無			
2005/6/20	50239	日本臓器製薬株式会社	フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子	トロンピン	ヒト血液	米国	有効成分	無	無	無			
2005/6/20	50240	日本臓器製薬株式会社	フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子	人血清アルブミン	ヒト血液	米国	添加物	無	無	無			
2005/6/20	50241	日本臓器製薬株式会社	フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子	アプロチニン液	ウシ肺	ウルグアイ、ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
2005/6/20	50242	日本臓器製薬株式会社	フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子	ヘパリンナトリウム	ブタ腸	不明(未発売)	製造工程	無	無	無			
2005/6/21	50243	中外製薬株式会社	インターフェロンアルファ-2a(遺伝子組換え)	ヒト血清アルブミン	ヒト血清	スイス	添加物	有	無	無	髄膜炎感染	CDC/MMWR 2005;54(21):537-9	臓器移植によるリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス感染に関する事例。
2005/6/21	50244	中外製薬株式会社	インターフェロンアルファ-2a(遺伝子組換え)	ペプトン	ウシ乳	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
2005/6/21	50245	中外製薬株式会社	インターフェロンアルファ-2a(遺伝子組換え)	マウスモノクローナル抗体	マウス腹水	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
2005/6/22	50246	日立化成工業株式会社	ウロキナーゼ	ウロキナーゼ	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	髄膜炎感染	Infectious Diseases Weekly Report Japan2004年第46週	細菌性髄膜炎の報告数が過去最高に達したとの報告。
											マイコプラズマ肺炎	Infectious Diseases Weekly Report Japan2004年第46週、48週、50週	マイコプラズマ肺炎の報告数が過去最高に達したとの報告。
											細菌性胃腸炎	Infectious Diseases Weekly Report Japan2004年第49週、50週、52週	感染性胃腸炎の報告数が増加しているとの報告。